地方独立行政法人大阪市博物館機構　年度計画

令和８年度

令和８年４月１日

地方独立行政法人大阪市博物館機構

（前　文）

地方独立行政法人大阪市博物館機構（以下「本法人」という。）は日本初の博物館群を運営する地方独立行政法人として平成 31 年４月に設立された。本法人の使命は大阪市ミュージアムビジョン（平成 28 年 12 月、大阪市策定）に掲げる「都市のコアとしてのミュージアム」を実現し、都市格の向上、大阪の活性化及び発展並びに住民力の向上に貢献することである。そのため本法人は文化・芸術の発展と自主的経営力の発揮を目指して、中長期的な視点に立った事業の計画立案から博物館の一体的経営まで一元的に取り組んできた。

第１期中期目標・中期計画期間においては、人材の確保や、資料の充実、施設・設備の整備など「法人の基礎固め」については一定達成することができたため、第２期においてはそれらの組織基盤を基に市民の皆様に様々な活動成果を還元できるよう積極的に年度計画を進める。

第２期中期目標・中期計画期間の３年度目にあたる令和８年度においては、資料の充実化や調査・研究活動の継続など博物館・美術館の根幹をなす普遍的な活動を継続して進めつつ、下記の重要事項に力点をおいて策定・実施する。

記

１　幅広い来館者の獲得による認知度の向上及び賑わいの創出並びに収入確保

過去最高の来館者数を記録した昨年度の実績を活かし、魅力ある特別展や所蔵コレクションを活用した展覧会の実施により幅広い来館者の獲得を図り、本法人の認知度向上や都市大阪の賑わいの創出に寄与するとともに、自立的な運営を目指した収入の確保に努める。

２　利用者サービスの向上と快適な鑑賞機会の実現

令和７年度に試行実施した開館時間延長等の継続実施や、大阪博開催を契機として進めてきた多言語化・ＩＣＴ化を引き続き推進することで、利用者サービスの向上と来館者にとって快適な鑑賞環境の確保を促進する。

３　戦略的広報・プロモーションの更なる推進

大阪博の開催を通じて蓄積したプロモーション実績やビッグデータ分析の成果、さらに広報・プロモーションに関する知見を基盤とし、エビデンスに基づく戦略的な広報・プロモーション活動を推進することで、各館の来館促進と認知度向上を実現する。

４　組織内ガバナンスの更なる強化

理事会及び経営会議等において法人全体の意思決定事項を共有するとともに、総務課長会議、学芸課長連絡会議に加え、研修・研究報告会等の機会を活用した各館横断的な職員交流を積極的に推進することにより、知識・ノウハウ及び成功事例の共有を図り、組織全体のシナジー創出及びガバナンスの一層の強化に資する。

＜各館の令和８年度の主要事業・施策＞

〇市立美術館

館蔵品及び寄託品を展示する企画展示（常設展示）を開催するとともに、本年は開館 90 周年を迎えることから、それを記念して、「全力！名宝物語－大阪市美とたどる美のエピソード」、「水滸伝」、また、「台湾何創時書法展」、「円山応挙」等の特別展を開催する。

また、ユニークベニュー事業や教育普及事業を積極的に推進することに加え、地域の企業団体との連携を通じて、地域経済の活性化に貢献する。

〇自然史博物館

展覧会については、マスメディア共催展として春期に「鳥展」、夏期に「大絶滅展」を開催し、来館者の増加を図るとともに、下半期には自主企画展「大和川の自然（仮称）」を開催し、大和川水系にくらす生き物や自然環境の変遷に関する市民協働調査の成果を広く発信する。

また、博物館活動として、SNS を活用した広報の強化、ＩＰＭ推進に向けた環境整備への取組、将来の大規模改修に向けた検討を進め、持続的かつ計画的な施設運営を推進する。

〇東洋陶磁美術館

館蔵品を活用した特別展「ＭＯＣＯコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― ＰＡＲＴ２」をはじめ、館名石（「ＭＯＣＯ石」）を磨くワークショップやＭＯＣＯファミリースペシャルデーなどのイベントを実施し、魅力ある展覧会事業を展開する。

また、大阪・関西万博会場に設置されていた五大陸の石を万博レガシーとして当館へ移設・展示することにより、万博の記憶と理念を継承するとともに、新たな展示資源として当館の魅力向上を図り、来館促進につなげる。併せて、リニューアルしたエントランス・ホール等を活用したユニークベニューにも取り組む。

令和８年８月から令和９年３月までの間については、休館の上、トイレ、扉、空調設備、電気設備等の改修・更新工事を実施する。

〇科学館

令和６年度にリニューアルした常設展示場１階企画フロアを、他の博物館や研究機関との協働により先端研究分野や時勢を踏まえた話題を企画展示のテーマに取り上げることで、更に充実させる。具体的には、明石市立天文科学館とは、時の記念日にあわせた「時を知りたい」展、大阪管区気象台とは昭和南海地震 80 年を踏まえた「地震の科学展（仮）」、京都大学化学研究所とは化学研究所 100 年にあわせた「時を超える化学」展等を開催する。

また、最新の知見を折り込んだプラネタリウム全天周映像を独自に企画・製作し、当館での上映後は国内外の科学館等に有償供与することで、プラネタリウムによる天文学普及の一翼を担う。今年度はオリジナル作品として銀河系内での太陽の移動を盛り込んだ「星の一生（仮）」を夏季番組として公開する。

〇歴史博物館

特別展はマスメディアと連携した「小泉八雲」・「豊臣兄弟！」を開催し、特集展示は館蔵品を生かし、地域に密着したテーマで５本開催する。また、開館 25 周年を迎え、館の認知度アップに取り組む。

３年目となる民間連携事業は、学びエンタメ事業、レストラン・ショップの運営に受付案内業務も加え、さらに活動の幅を広げる。数年後のインフラ設備と大規模メンテナンスに向けて、館内の魅力向上に向けた検討を進める。

〇中之島美術館

「フェルメール展」や「大英博物館日本美術コレクション展」など、マスメディアと連携した注目度の高い特別展を開催するとともに、関西ゆかりの美術家の展覧会や「ＮＨＫ日曜美術館 50 年展」など中之島の独自性の高い展覧会を展開し、多くの来館者を呼び込むことで大阪の活性化に貢献する。

また、来館者目線に立ったサービス向上のため開館延長を実施する。

大阪市立美術館

（前　　文）

美術作品を通じ、新しい価値に触れ豊かな感性を育むさまざまな機会の提供を館の使命とする。

日本・中国を中心に広く世界諸地域の文化財について、調査研究、管理、収集、保存、展示、教育普及等の事業を行う。

また、来館者の満足度が高く住民にとって立ち寄りやすい美術館を目指し、令和７年のリニューアル・オープンを迎えたことを契機に、改めて、マスコミ等との共催による特別展の企画を推進し、大型特別展の誘致にも注力する。

第１　住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

１　博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア　専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（１）

ア　専門人材の安定的確保を図る。

イ　人材育成の一環として、文化庁の主催する博物館活動に資するセミナーへの学芸員の受講を推進する。

2) 博物館等資料に関する調査研究（２）

館蔵品、寄託品等及び各関連分野の作品について調査を進め、論文や著作、コラムなどの執筆や、研究発表、講演会、学会などの発表など、基礎研究を行う。

【令和７年度実績】

・作品・資料等実地調査　100 件

・著書・論文等（研究ノート・コラム等含む）　12 件

・研究発表等（講演会・パネラー等含む）　15 件

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（３）

文化庁主催の展示取り扱いセミナーや、東京文化財研究所主催の「美術館等保存担当学芸員研修」を受講する。また文化財修復案件の監督や助言を行う。

【令和７年度実績】

・東京文化財研究所「令和７年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）」を受講。

・光影堂修理監督１件、岡墨光堂修理監督１件、楽浪文化財修理所修理監督１件

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（４）

大規模改修工事を経て導入されたスペックを展覧会に活かしより魅力的な展示とするべく、近隣の先進館を視察し、実際に行われている有効なスキルを導入する。特に、独立ケースの使い方やカッターライトを含めたライトのシューティング方法、キャプションの有効な位置などについて、国立館や近隣の公立館、私立館の協力を仰ぐ。

【令和８年度目標】視察件数　５件

5）博物館等の運営に関する調査研究及び評価（５）

全国の博物館・美術館が参画する各種研究会、マスコミ各社の文化事業部等との情報交換をもとに、大都市及び地方中核都市での展覧会の開催動向や運営戦略について調査・研究を行う。

イ　資料の充実

6）博物館等資料の収集、整理及び提供（６）

ア　購入及び寄贈・寄託を通じて、博物館活動に有効な作品収集を実施する。

【令和７年度実績】購入０件　寄贈 317 件　寄託 受入１件　返戻１件

イ　調査研究に資する図書・雑誌・展覧会図録を収集する。

【令和７年度実績】購入　図書・雑誌 200 件

7）博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（７）

今後の館蔵品の修復計画を検討する。

8）防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（８）

ア　害虫トラップ、空気環境の調査・分析、清掃、コンサルティングの定期的実施により、新規設備を最適運用するための諸データ収集、防犯・防災システムの定期的点検を実施する。

イ　特別展における展示室内のミュージアムショップ使用について、ＩＰＭの観点から他館の状況を把握し、当館の活用に活かす。

9）ＩＣＴを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（９）

館蔵品データベースの画像追加（1,000 件程度）とともに、館蔵品の３Ｄデジタルコンテンツ（10 件程度）を公開し、館蔵品に対する一般の関心を獲得する。

【令和７年度実績】

美術館ＨＰ、デジタル大阪ミュージアムズにおいて、館蔵品データベースとして、9,815 件（画像付 844 件）公開

ウ　施設及び設備の充実

10）博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

改修後の館の持つ機能を把握し適切に運営することで、安全性や快適性の向上を確保する。

11）バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

バリアフリー化した施設を適切に活用することで、来館者の利便性の向上を確保する。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1）2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

展覧会において「大阪の宝」を紹介する。また館蔵品データベースへの画像を追加する。

2）所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を多彩な作品ジャンルから企画する。また、東アジアの美術・歴史・文化に特化したテーマによる「特集展示」を開催する。

【令和８年度目標】

特集展示「沈没船の陶磁器」（仮称）の開催、「企画展示」の 200 日開催

企画展示入館者数　目標 38,400 人

3）自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化（14）

開館 90 周年記念として、春の自主企画の「全力！名宝物語 ―大阪市美とたどる美のエピソード」では、多数ある館蔵品と受託品のなかから名品や珍品をテーマに沿って展示し、大阪市立美術館の収蔵品をアピールする。また、夏に「水滸伝」、秋に「何創時書法展」と、当館の特性を活かした初めての内容の自主企画を行う。

【令和８年度目標】

全力！名宝物語 ―大阪市美とたどる美のエピソード：入館者数　目標 42,730 人

水滸伝：入館者数　目標 62,804 人

何創時書法展：入館者数　目標 26,000 人

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（15）

閉館時間以降も開店するカフェの入店状況を把握し、夜間開館等により来館者利便性向上策を実施する。

5）博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施（16）

ア　ミュージアム連続講座等、本法人の連携事業に学芸員が出講する。

イ　大阪市立総合生涯学習センターの連携講座に当館学芸員が 3 回登壇する。

ウ　ＮＨＫ大河ドラマ「豊臣兄弟」と関連して、大阪歴史博物館と連携し、当館企画展示で豊臣秀長を特集した展示を行う。

6）博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（17）

ア　東京国立博物館特別展「百万石！加賀前田家」や、奈良国立博物館特別展「神仏の山 吉野・大峯―蔵王権現に捧げた祈りと美―」をはじめとして、国内外の 15 件の館蔵品・受託品を出品する。

イ　特別展「水滸伝」展では 200 件以上、「何創時書法展」では約 100 点、「円山応挙」展では約 200 点の展示品を、あわせて約 100 件の法人外の博物館施設等と連携して文化財の借用を行う。

7）各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開（18）

館内施設を活用して、ユニークベニューを実施する。

(3) 国際的な連携及び発信

1）国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等（19）

東アジア各地域の美術史やミュージアム経営戦略等に関する学芸員の調査・研究活動の成果について、国際的に視野を拡大して情報発信を図る。

2）海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成（20）

ア　国外館の書籍出版等による画像掲載依頼への協力、各種刊行物の交換などを通じて、学芸員の学術交流を深めるとともに、国外作品に関する情報蓄積を継続的に行う。

イ　「水滸伝」展では、中国北宋時代の文物を多く展示し、国内外の研究者や学芸員と情報交流を行う。

ウ　12 月に上海博物館の展覧会「Masterpiece of Bada Shanren :400th Anniversary」で、当館所蔵品が出品する。

3）博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（再掲）（21）

ア　台湾の何創時雲瑞博物館と連携し、秋に同館が所蔵する中国書画を集めた「何創時書法展」展覧会を開催予定。同館学芸員と当館学芸員が互いに出張し交流する。

イ　台湾故宮博物院と焼き物の共同研究を行い、台湾故宮の学術雑誌に投稿する。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1）2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（22）

リニューアルしたＨＰを活用し、当館の認知度向上や情報発信を行う。

2）エビデンスに基づいた戦略的広報の展開（23）

特別展開催毎にアンケートを実施する。

3）学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開（24）

リニューアル・オープン後の館や実施する事業の魅力を全国的にアピールするため、テレビ、新聞及び美術雑誌等に向けた情報発信（出演・寄稿・広告掲出等）の頻度を高める。

4）他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開（25）

大阪観光局と連携した広報展開を行う。

5）多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信（26）

ＳＮＳによる情報発信を積極的に進める。

【令和８年度目標】

Ｉｎｓｔａｇｒａｍ：30 回以上

Ｘ：30 回以上。学芸担当を決めて、週に２回以上のペースで発信する。

２　幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1）2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）（27）

リニューアルしたＨＰを活用し、当館の認知度向上や情報発信を行う。

2）所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

【令和８年度目標】

特集展示「沈没船の陶磁器」（仮称）の開催、「企画展示」の 200 日開催

企画展示入館者数　目標 38,400 人

3）文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催（29）

新聞社やテレビ局との共催による特別展の企画を推進し、大型特別展の誘致に注力する。 また、大阪観光局等と連携を図り、効率的かつ効果的に館の市場浸透を図り、主催する展覧会の告知を行う。

【令和８年度目標】

全力！名宝物語 ―大阪市美とたどる美のエピソード：入館者数　目標 42,730 人（再掲）

水滸伝：入館者数　目標 62,804 人（再掲）

何創時書法展：入館者数　目標 26,000 人（再掲）

円山応挙：入館者数　目標 90,000 人

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

閉館時間以降も開店するカフェの入店状況を把握し、夜間開館対応の費用対効果を検証しつつ、来館者利便性向上策を検討する。

5）多言語表記やＩＣＴの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

館ＨＰの情報更新と多言語化、及び「企画展示」の解説やサイネージ情報の多言語化を実施する。

6）施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

入場者の状況や展覧会の構成に合わせた臨機応変なサインを実施し、来館者の利便性を向上する。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携（33）

ア　慶沢園と連携した事業を実施する。

イ　周辺エリア（てんしば等）の事業者等との連携を図る。

(3) 民間企業等との協働等

1） 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実（34）

ミュージアムショップやカフェの委託事業者と協議を行い、館運営とリンクした来館者サービスの向上を実現する。

2）民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発（35）

ミュージアムショップ委託事業者と連携し開発したオリジナルグッズについて、改良等を検討する。

3）各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援（36）

各種出版や商品開発のための画像データを提供する。

【令和７年度実績】50 件

3　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援（37）

ア　子ども、家族を対象とするワークショップやイベントを実施する。

イ　対話型鑑賞、及び朗読と映像・音楽による作品鑑賞会を開催する。

(2) 幅広い来館者への支援（38）

大学生や小中高生相手のレクチャ―などは依頼があれば積極的に行っていく。

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやＮＰＯ等の各館への活動の参画の促進（39）

各種ボランティア活動、ＮＰＯ等の館活動への参画等をサポートする人員の配置について、引き続き館内で協議する。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定（40）

カフェ及びミュージアムショップの委託事業者から、美術館運営に関する意見を聴取する。

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励（41）

教育普及事業の一つとして位置付けている美術研究所を運営する。また、じゃおりうむ等フリースペースを利活用する試みを実施する。

大阪市立自然史博物館

（前　　文）

大阪の「自然の情報拠点」として大阪市立自然史博物館の機能を発展させること、社会教育施設として人々の知的好奇心を刺激し、自然を見つめる学習の援助を行うこと、など館の使命の実現を目指す。

人々をとりまく自然のなりたちや、仕組み、変遷を、展示や普及活動を通して広く伝え、調査研究や資料の収集と保存、管理を通して過去から現在、未来へと自然史資料を伝える。

今後の館のあるべき姿を考え、将来にわたり持続的に発展する博物館として大規模な施設改修実施に向けて検討を進めるとともに、所蔵のコレクションを追加・活用することで展示の意義や魅力を向上させる。

第１　住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

１　博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア　専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（１）

ア　必要な分野の学芸員および必要な職能の職員を安定的に配置するとともに、ライフプランに応じた休職時等においても業務継続が可能となるよう、代替体制や支援措置を整理・確保する。

【令和７年度実績】古生物担当・保存科学担当を採用

イ　スキルアップのため、関連催事（関連分野の学術集会、博物館学関連行事、職能研修 等）をオンライン・オフラインで誘致・実施し、研修内容や参加実績を整理することで、職員の専門性向上を図る。

ウ　外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会・専門的研修へ参加する。必要に応じオンライン会議を活用し、国外のセミナー等にも参加する。

エ　総務系職員や案内要員を含め、館の活動への理解を深めるための研修を実施し、研修内容や参加状況を整理することで、館内全体の業務理解の向上を図る。

2) 博物館等資料に関する調査研究（２）

ア　学芸員が館蔵資料および野外調査を活用した基礎研究を継続的に実施し、成果の可視化（報告書作成、発表等）を通じて研究の蓄積を図る。

イ　外来研究員や外部研究者による館蔵品を用いた研究を支援し、共同研究や成果発表の実現を通じて、館の研究活動の充実を図る。

ウ　科研費や民間助成金を活用し、必要な調査を計画的に実施する。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（３）

ア　大規模改修をにらみ、必要な収蔵体制や条件等について大規模改修検討会議、学芸会議等でより精緻に検討を進め、具体的な諸室の条件等を明確化、基本計画や設計に反映する。

イ　文化財防災ネットワークと連携し、大規模災害に備えるとともに、調査や研究・研修への参加や協力実績を積み上げる。

ウ　国際自然史標本保存学会や文化財科学会など、自然史分野の保存科学関連の情報を積極的に収集し、またそれを機構内や国内に還元する。

エ　「自然史博物館研究報告」等を通じて当該分野の研究成果を継続的に受け入れ、学術的成果の蓄積と公開を推進する。

4）博物館等資料の展示に関する調査研究（４）

ア　新たな展示手法および包摂的な展示手法について調査・検討を行い、検討成果を整理資料としてまとめ、将来の展示整備に活用する。

イ　外部資金を活用したデジタル展示およびＳＤＧｓ教育展示の開発を進め、具体的な展示コンテンツとして実装・公開する。

ウ　西日本自然史系博物館ネットワークや全国科学博物館研究協議会、全日本博物館学会などと連携した展示手法に関する研究会・学会に参加し、情報収集及び当館の取組を発表し、議論する。

5）博物館等の運営に関する調査研究及び評価（５）

ア　科研費共同研究等の機会を活用し、来館者の期待、経営手法、寄附開発に関する調査研究を実施し、分析結果を報告書等に整理して館の運営改善に活用する。

イ　ビッグデータを用いた来館者属性分析を実施し、来館傾向の可視化と施策改善への活用を図る。

ウ　博物館を取り巻く様々な属性を持つ（潜在的）利用者からのヒアリングの機会を設け、インクルーシブな博物館運営に資する改善点を整理する。

エ　友の会からの意見・要望を定期的に収集し、対応方針を整理のうえ、運営改善に反映する。

イ　資料の充実

6）博物館等資料の収集、整理及び提供（６）

ア　改定した「大阪市立自然史博物館資料収集方針」に基づき、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承する体制を強化する。

イ　収蔵品の増加ペースおよび残存収蔵スペースを精査し、大規模改修までの期間を見据え、「資料収集方針」に基づく中期的な収蔵計画を策定する。

7）博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（７）

ア　外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進め、記録データを整理・保存し、将来の保全に活用できる状態を確保する。また、デジタル画像の公開件数を拡充する。

イ　大山文庫・岸川蔵書などの現状の記録と修復手法について標本委員会等で検討・協議を行い、今後の保存管理に活用できる指針を整理する。

ウ　保存科学担当職員の支援を得てＩＰＭ管理を推進し、管理体制の可視化と継続的な改善を図る。

8）防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（８）

ア　収蔵庫内での虫菌害の監視及び温湿度管理を継続的に行い、点検結果を記録・蓄積することで、標本の保存環境の維持状況を可視化する。

イ　入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行い、管理状況を記録として整理することで、資料管理体制の確実性を確保する。

ウ　令和７年度に策定したＢＣＰを踏まえ、防犯・防災システムの定期点検および訓練を実施し、点検結果や訓練実績を記録・共有することで、非常時対応体制の実効性を高める。

エ　収蔵庫内の棚転倒防止対策・有機酸対策を順次実施し、実施箇所や内容を記録として整理することで、収蔵環境の安全性向上を図る。

オ　西日本自然史系博物館ネットワーク・文化財防災ネットワークなどとの連携による災害対策について標本委員会等で検討・協議を行い、対応方針を整理した資料を作成する。

カ　大規模改修により館屋の耐震性能の向上をはかり、人と物の安全確保に資する施設環境の整備の計画作成を進める。

9）ＩＣＴを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（９）

ア　外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進めることとし、植物から順に記録を行う。

イ　大阪博の館蔵品データベースを活用したジャパンサーチへのデータ提供に向けたデジタル・アーカイブ化等について諸条件を確認し、可能なものから各種補助金を活用して実現を図る。

ウ　研究資料のＪＡＩＲＯ Ｃｌｏｕｄによる公開を引き続き実施するとともに、未公開の資料についても順次公開し、公開資料の拡充状況を整理・把握する。また、さらなる公開・流通方法について検討成果をまとめる。

エ　自然史分野におけるＡＩ活用に関する情報を収集し、博物館での今後の活用の是非についての論点整理をし、研究報告への投稿、研究利用などのルール化を試みる。

ウ　施設及び設備の充実

10）博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

大規模改修による機能強化に向け、予算獲得及び実施に向けた検討を進め、関係各所との調整を通じて事業化に向けた具体的な進捗を図る。

11）バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

ア　花と緑と自然の情報センターの点字ブロックなどの整備について、植物園と協議を進め、整備内容や対応方針を整理・明確化する。

イ　大規模改修の中でのハードウェア面での改善を目指すとともに、運用による改善が可能な項目についての検討を進め、対応可能な改善策を明確化する。

ウ　特別なニーズを持つ利用者からのヒアリングを含め、対話の取組を進め、意見や要望を整理した資料を作成のうえ、施設運営やサービス改善に反映する。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1）2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

ア　デジタル資料の充実を生かし、大阪博Ｗｅｂサイトや機構Ｗｅｂサイトと連動したコンテンツを企画・実施するとともに、具体的な展示・広報コンテンツとして公開する。

イ　「いのち輝く未来社会のデザイン」を踏まえたシンポジウム等を実施し、成果を館内外に発信することで、レガシーの継承につなげる。

2）所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

常設展示室内で行う企画展示やテーマ展示・ミニ展示等で、所蔵コレクションを用いて深掘りした情報を来館者に伝えていくとともに、ＳＮＳ、動画配信等デジタルメディアを活用して展示品の背景情報についても伝えていく。

ア　ミニ展示・企画展示を計画的に実施し、実施内容や来館者の反応を整理することで、展示活動の充実を図る。

イ　展示室内での子ども向けワークショップを継続的に実施し、参加状況やアンケート結果を整理・分析のうえ、展示室活用の改善に反映する。

ウ　所蔵コレクションや展示品を解説する学芸員トーク番組を継続的に配信し、配信実績や視聴状況を把握することで、情報発信の充実を図る。

【令和８年度目標】常設展入場者数　303,590 人

3）自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化（14）

学芸員の研究や住民との協働研究に根ざし、大阪の自然の新たな一面や資料の新たな価値を紹介する特別展を開催する。展示だけでなくオンライン配信やＳＮＳの展開と合わせ、その価値を広く住民と共有できるものとする。

ア　年度後半に「大和川展」を開催し、学芸員の研究成果や市民との共同研究に基づく展示・解説を実施するとともに、展示内容や来館者の反応を整理・共有する。また、マスコミと連携した巡回展示においても、当館資料を活用した展示を行う。

【令和８年度目標】

・「大和川展」18,500 人

（マスコミ共催展）

・「鳥展」85,000 人

・「大絶滅展」80,000 人

イ　学芸員の専門分野および特別展の内容に即した「自然史オープンセミナー」を開催し、参加状況やアンケート結果を整理することで、普及事業の充実を図る。

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（15）

ア　ＴｅａｍＬＡＢＯ事業などとの関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展等の機会を捉え、特別鑑賞や団体向けの特別夜間開館を実施し、実施結果の把握と夜間開館の有効性や課題を明らかにする。

イ　観察会や講演会等を組み合わせた付加価値のあるナイトミュージアムを試行的に実施し、参加状況やアンケート結果を整理・分析することで、実施の可能性や課題を検証する。

【令和７年度実績】「友の会の夕べ（友の会向け内覧会）」72 人

5）博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施（16）

ア　連続講座や大阪博Ｗｅｂサイトでのデータ公開など各事業に積極的に関与し、企画・運営

への参画内容を整理するとともに、実施成果を館内で共有する。

【令和７年度実績】

・４月に配置された保存科学担当による各館への保存環境アドバイス実施

・「教員のための博物館の日」での大阪市立科学館によるプレゼンテーション

・大阪市立科学館の「日本酒の科学」での講演

・自然史博物館での展示に東洋陶磁美術館から企画協力

・その他、事務局などによる協働広報

イ　共同した外部資金獲得の可能性について積極的に情報収集し、公開の場であるべき姿の議論を進める。

6）博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（17）

ア　資料の研究利用目的および展示目的での貸出を計画的に実施し、貸出実績や活用内容を整理することで、資料活用の促進状況を可視化する。

イ　外来研究員をはじめとする博物館資料を活用する研究者の受け入れを実施し、受入実績や研究成果の概要を整理・共有することで、研究支援体制の充実を図る。

ウ　特別展示等において外部博物館からの資料借用を適切に実施し、借用手続や展示実績を整理することで、博物館間の信頼関係の維持・向上を図る。

エ　文化遺産防災ネットワークや西日本自然史系博物館ネットワークと連携し、防災および相互レスキュー体制の維持･強化を図るとともに､連携内容や訓練･協力実績を整理･共有する。

7）各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開（18）

ア　学会等の催事開催について積極的に誘致を行い、実際の開催実績につなげることで、施設利用の拡大を図る。

イ　エコカー展示等の企業活動と連携した催事について､ＭＩＣＥ事業者等と情報共有を行い、具体的な催事の実施につなげる。

ウ　長居植物園のイベント開催に関連したユニークベニュー利用について誘致を行い、実際の利用実績の創出を図る。

【令和７年度実績】Ｌｉｌｌｅ3000 企画展示に関連したファッションショー

(3) 国際的な連携及び発信

1）国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等（19）

ア　ＩＣＯＭ日本委員会の活動に積極的に関与し、会議・事業等への参加実績や貢献内容を整理・共有することで、国際的な博物館活動への関与を深める。

イ　台湾国立博物館等と共同して都市生態に関する研究および展示発表を実施し、国際的な研究・展示成果として発信する。また、ＩＣＯＭ日本委員会の活動に参画し、会議・事業等への参加を通じて国際的な博物館ネットワークとの連携を強化するとともに、参画内容や成果を整理・共有する。

【令和７年度実績】

国際自然保護連盟日本委員会と連携したシンポジウム「大阪湾岸『いのち輝く』を未来へ」の開催

2）海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成（20）

ア　令和７年度に引き続き、ＪＩＣＡ博物館研修に協力し、研修プログラムへの参画内容や実施実績を整理・共有することで、国際協力事業への貢献を可視化する。

イ　北海道大学、筑波大学などと連携し、モンゴル・ウズベキスタンにおける生物研究を実施するとともに、研究成果を報告・発信することで国際共同研究の実績を積み上げる。

ウ　モンゴル国立博物館等と共同して保存科学に関する教育・研究を実施し、教育内容や研究成果を整理・共有することで、国際的な人材育成と研究協力を推進する。

【令和７年度実績】

・ＪＩＣＡ国際研修「地域開発とミュージアム」の９カ国の参加者への研修実施

・モンゴル国立博物館と協働した保存科学に関する教育・研究実施（出張３回、受入研修１回）

3）博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（再掲）（21）

海外研究者による資料の閲覧・貸出について、デジタルおよび実物の両面で対応し、対応実績や提供内容を整理・記録することで、国際的な研究支援体制の充実を図る。

（4）戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1）2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（22）

ア　大阪博Ｗｅｂサイト等と連携してプロモーション活動を実施し、共同で作成した広報コンテンツや発信実績を整理・共有することで、情報発信力の強化を図る。

イ　ブルームバーグ社の支援を受け、プロモーションコンテンツの充実およびサイネージの整備・運用を行い、整備内容や運用実績を整理することで、来館者向け情報発信環境の向上を図る。

2）エビデンスに基づいた戦略的広報の展開（23）

ア　モバイル端末によるビッグデータの活用について広報委員会で検討を行い、分析結果を整理した資料を作成のうえ、データに基づく広報施策を実施する。

イ　ＳＮＳ等のアクセス情報を分析し、利用者の反応を整理・把握することで、情報発信内容の改善に活用する。

【令和７年度実績】

・Ｉｎｓｔａｇｒａｍ　5,304 人

・Ｘ（レギュラー）16,286 人、Ｘ（特別展）3,753 人

3）学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開（24）

ア　適切なプレスリリースを作成・配信し、発信内容や配信実績を整理することで、専門的な情報提供の充実を図る。

イ　ＳＮＳ等を通じて平易な情報発信を継続的に行い、発信内容や反応状況を整理・分析することで、情報発信の改善につなげる。また、新規 SNS への対応について検討結果を整理する。

4）他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開（25）

大阪市立中央図書館および各区の図書館において巡回展示等を実施し、館外における情報発信の充実を図る。

5）多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信（26）

ア　研究報告を継続的に発行し、ホームページ上で公開を着実にすすめる。

イ　共同研究報告書や館蔵資料集を継続的に発行し、研究成果の共有を図る。

ウ　年報を作成し、ホームページ上で公開することで、館の活動内容を整理・可視化し、情報公開の充実を図る。

エ　ＳＮＳ、ブログ、ホームページを活用して学術情報や研究過程を発信し充実を図る。

２　幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1）2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）（27）

ア　大阪博Ｗｅｂサイト等と連携してプロモーション活動を実施し、共同で作成した広報コンテンツや発信実績を整理・共有することで、情報発信力の強化を図る。

イ　ブルームバーグ社の支援を受け、プロモーションコンテンツの充実およびサイネージの整備・運用を行い、整備内容や運用実績を整理することで、来館者向け情報発信環境の向上を図る。

2）所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

ア　ミニ展示・企画展示を計画的に実施し、実施内容や来館者の反応を整理することで、展示活動の充実を図る。

イ　展示室内での子ども向けワークショップを継続的に実施し、参加状況やアンケート結果を整理・分析のうえ、展示室活用の改善に反映する。

ウ　所蔵コレクションや展示品を解説する学芸員トーク番組を継続的に配信し、配信実績や視聴状況を把握することで、情報発信の充実を図る。

【令和８年度目標】常設展入場者数　303,590 人

3）文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催（29）

マスメディア各社と連携して魅力ある特別展の誘致を行うとともに、必要に応じ所蔵のコレクションを追加・活用することで展示の意義や魅力を向上させる。また、当館企画による巡回展の企画に付いてマスコミ各社との協議を行う。

【令和８年度目標】

・「鳥展」85,000 人

・「大絶滅展」80,000 人

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

ア　ＴｅａｍＬＡＢＯ事業などとの関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展等の機会を捉え、特別鑑賞や団体向けの特別夜間開館を実施し、実施結果の把握と夜間開館の有効性や課題を明らかにする。

イ　観察会や講演会等を組み合わせた付加価値のあるナイトミュージアムを試行的に実施し、参加状況やアンケート結果を整理・分析することで、実施の可能性や課題を検証する。

【令和７年度実績】「友の会の夕べ（友の会向け内覧会）」72 人

5）多言語表記やＩＣＴの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

ア　これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果を踏まえ、やさしい日本語を含む多言語での情報発信について内容を見直し、改善点を整理したうえで反映する。

イ　常設展示場内の外国語表記について、二次元コードを活用した解説など多様な手法の他館事例を展示委員会で調査し、試行実施とその結果の整理を行う。

ウ　館内表示や非常放送の多言語対応について検証を行い、課題を整理したうえでスタッフによる案内方法の改善に反映する。

6）施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

長居植物園・長居パークセンターと協調してサインの掲出内容を調整・実施し、掲出箇所や内容を整理することで、来園者への案内機能の向上を図る。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携（33）

ア　特別展等の機会を捉え、周辺飲食店と連携した企画を実施し、連携内容や実施実績を整理することで、地域連携による来館促進を図る。

イ　セレッソ大阪のヨドコウ桜スタジアムでの試合開催時に特別展のＰＲを実施し、実施内容や反応状況を整理することで、スポーツ連携による広報効果を可視化する。

ウ　大阪自然史センターと連携し、ショッピングモール等におけるＰＲ企画を特別展等の催事に合わせて実施し、館外広報の充実を図る。

(3) 民間企業等との協働等

1）各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実（34）

ア　ミュージアムショップサービスを継続的に提供するとともに、アンケートによるフィードバックを活用し、常設展・特別展と連動した商品展開に関する情報提供を行い、商品構成やサービス内容の改善を図る。

イ　自動販売機設置等のアメニティサービスを継続的に提供し、利用状況や要望を踏まえた維持・改善を行う。

2）民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発（35）

ア　ミュージアムショップサービスを継続的に提供するとともに、常設展・特別展と連動した商品展開に関する情報提供を行い、商品構成やサービス内容の改善を図る。

イ　自動販売機設置等のアメニティサービスを継続的に提供し、利用環境の維持・改善を図る。

ウ　民間出版社と協力して書籍を作成し、研究成果や館の取組を広く発信する。

3）各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援（36）

ア　大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府等の環境行政に委員等として参画し、専門的助言を通じて施策に貢献する。

イ　大阪府のレッドリストや生物多様性地域戦略の策定・改訂に有識者として参画し、専門的知見の提供を通じて貢献する。

ウ　兼業等を含め、民間企業等への講師派遣を実施し、講義内容や実施実績を整理することで、専門知識の社会還元を図る。

エ　長居公園みどり自然部会に参画するとともに、関西文化の日の取組に連携し、協力内容や実施成果を整理することで地域連携の実績を可視化する。

オ　長居公園が実施する植物園内鳥類モニタリング調査に協力し、生物多様性保全への提言を行う。

3　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援（37）

ア　子ども向けセルフワークシートとして「探検ノート」を開発・配布し、利用状況や反応を整理することで、学習支援ツールの充実を図る。

イ　展示室内での子ども向けワークショップを継続的に実施し、実施内容や参加状況を整理することで、展示室活用の活性化を可視化する

ウ　「教員のための博物館の日」を開催し、学校利用に関する研修・相談を実施するとともに、参加状況や相談内容を整理し、学校連携の充実につなげる。

エ　教員向けサポート連絡誌「ＴＭ通信」を発行し、利用方法の周知を行うとともに、配布実績や活用状況を整理することで、情報提供の充実を図る。

オ　教員と連携して貸出資料・学習キットを開発し提供することで、学校利用支援を強化し実績を可視化する。

カ　職場体験を受け入れ、実施内容や参加状況を整理することで、教育的効果を可視化する。

(2) 幅広い来館者への支援（38）

ア　特別なニーズを持つ利用者へのヒアリングを含む対話を実施し、意見や要望を整理した資料を作成のうえ、施設運営やサービス改善に反映する。

イ　博物館実習生、インターン、専門研究目的の学生の受入を実施し、受入実績や成果の取りまとめを行い、博物館学教育に貢献する。

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやＮＰＯ等の各館への活動の参画の促進（39）

ア　ボランティア活動を維持するとともに、自然科学的な研修・安全講習などを実施し、普及委員会などにおいて活動の課題や充実状況を点検する。

イ　学生向けボランティアに対し、自然科学的研修および教育手法に関する研修を実施し、指導を通して課題・成果を把握することで、人材育成の強化を図る。

ウ　関連ＮＰＯ法人等と協働した事業を実施し、事業内容や成果を整理・共有することで、協働実績の蓄積を図る。

エ　人材育成を目的として、友の会の講座や見学会への講師派遣を実施し、派遣内容や実施実績を共有することで、連携成果を蓄積する。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定（40）

ア　ボランティアやＮＰＯとの連携方針について普及委員会等で検討を行い、博物館および周辺活動の活性化に向けた資金獲得のあり方について公開での議論を踏まえ、制度検討の内容を整理した資料を作成する。

イ　友の会の総会・評議員会および各種ワーキンググループを通じて意見を聴取し、主な意見や提案内容を整理・共有することで、運営改善に活用する。

ウ　協働するＮＰＯとの定期的な協議の場を設け、協議内容や連携事項を整理・共有することで、協働体制の強化を図る。

3）さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励（41）

ア　住民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。

イ　他の博物館と連携して活動する住民団体・アマチュア団体・学術団体に対する指導・支援を実施し、興味の動向やニーズを把握することで、活動支援体制の充実を図る。

ウ　関連学会と連携して住民の発表機会を誘致・実施し、実施内容や参加状況を整理することで、発表機会の取組み実績を可視化する。

エ　大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展等において、生徒・児童の発表機会を確保し、実施内容や参加状況を整理することで、教育的発表機会の充実を図る。

大阪市立東洋陶磁美術館

（前　　文）

豊かな感性を育み、教養を高める美術館としての役割を果たし、大阪が誇る世界で最も洗練された陶磁専門美術館を目指す。

東洋陶磁をはじめとしたコレクションを中心に、関連するその他美術、工芸について、調査研究、保存、管理、収集、展示、教育普及等の事業を行う。

エントランス空間を増築しリニューアルした大阪市立東洋陶磁美術館が中之島のランドマークとなるよう、集客力のある展覧会事業を立案・運営・実施してくとともに、展示環境はもとよりカフェやミュージアムショップ等の充実による館の魅力向上を実現する。また、リニューアルした施設を活用したユニークベニュー等の取組を積極的に進める。

第１　住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

１　博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア　専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（１）

ア　日常的な学芸事務、展覧会事業等におけるデスクワーク、作品取扱や展示・撤収について、館内研修等により人材育成に取り組む。

イ　文化庁が主管する国指定文化財の取扱や企画・展示に関するセミナー・研修等を積極的に活用し、学芸員の質的向上を図る。

2) 博物館等資料に関する調査研究（２）

コレクションの展示内容の充実を図るため、館蔵品およびその関連作品に関する基礎研究を継続的に推進し、その成果を展示や講演会・講座などに反映させていく。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（３）

ア　ＩＰＭなどを通じた作品や資料の保全を図り、収蔵庫や展示室における温湿度環境の改善を検討する。

イ　損傷のある作品や修理箇所が古くなり再修理が必要な作品について、優先順位をつけ今後の修理計画を立てる。

ウ　作品を安全に保管する桐箱について、優先順位をつけながら新調をしていくなど、予算化に向けて検討する。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（４）

文化庁や国立文化財機構等が開催する研修会への参加を通じて、展示をはじめとする公開・活用に関する知見の獲得に努める。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（５）

ア　日本博物館協会や全国美術館会議等の動向を踏まえるとともに、マスコミ各社や広報事業者との情報交換を行い、効果的な情報提供や広報活動等への活用について検討し、その方向性を協議する。

イ　入館者アンケートについて、現状に即した内容に改訂した上で調査を実施する。

イ　資料の充実

6）博物館等資料の収集、整理及び提供（６）

ア　寄贈、購入、寄託等を通じて、展示や調査研究等の活動に有効な作品の収集に努める。

イ　展示や調査研究等の活動に有用な書籍、展覧会図録、研究雑誌等の収集に努めるとともに、インターネットで検索可能な雑誌サイト等を活用し、書庫の有効活用を図る。

7）博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（７）

保存環境の見直しが必要な館蔵品について、優先的に対策を進める。

8）防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（８）

ア　収蔵庫や展示室等において、ＩＰＭ調査による虫菌害の監視および対策を実施するとともに、空調システムによる温湿度管理を行いながら、展示ケース内の温湿度調査を実施し、適切な収蔵・展示環境の整備・改善に努める。

イ　保管スペースの確保を図るため、資料展示室等を対象とした収蔵庫スペース拡充の方策について検討・協議する。

9）ＩＣＴを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（９）

ア　新規寄贈作品について、手続き終了後に写真撮影を行うとともに、展示や調査研究、収蔵確認作業等の優先順位を勘案しながら、未撮影の館蔵品についても継続的に撮影を行い、アーカイブ化を図る。

イ　館蔵品のオープンデータ化を継続的に推進する。

ウ　ジャパンサーチと連携し、公開デジタル・アーカイブの利活用促進を図る。

ウ　施設及び設備の充実

10）博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

貴重な作品を安全に管理するための収蔵スペースの整備し、貴重な作品を安全かつ最適な環境で展示・保管するための展示室・収蔵庫の温湿度管理環境の改善の実施を目指す。

ア　作品の安全性及び最適な鑑賞環境の向上を図るため、展示室の温湿度管理環境の改善に取り組むとともに、来館者にとって快適な鑑賞環境を確保するため、老朽化したガラスの高透過化・無反射化等の改修に向けた準備を進める。

イ　作品の安全な保管を図るため、収蔵庫スペースの拡充や温湿度管理等、基本的な環境改善に向けた検討を進める。

11）バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

カフェ入口へ続くスロープ、転回スペースおよび店内の通路幅については、ベビーカーや車椅子がゆとりをもって通行できる十分な幅を確保した上で、利便性の向上に努める。また、トイレについては、バリアフリーの考え方を基本としつつ、多様な性のあり方にも配慮し、すべての来館者が安心して利用できる環境整備を図る。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1) 2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

ア　大阪博で選定した「大阪の宝」20点について、生成ＡＩ等のデジタル技術を活用した作品紹介のショート動画を作成し、Ｂｌｏｏｍｂｅｒｇ Ｃｏｎｎｅｃｔｓや公式ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルを通じて発信することで、作品の魅力を分かりやすく伝え、市民の関心を高め、来館促進につなげる。

イ　大阪・関西万博会場において「Ｌｏｖｅ Ｓｔｏｎｅ Ｐｒｏｊｅｃｔ ＥＸＰＯ 2025」として、世界五大陸から採取された石を彫刻家・冨長氏がハート形に加工し、万博来場者が共に磨き上げることで国や文化を超えた「愛」と「平和」を表現した作品について、万博レガシーとして当館へ移設・展示することにより、万博の記憶と理念を継承するとともに、新たな展示資源として当館の魅力向上を図り、来館促進につなげる。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

安宅コレクションや李秉昌コレクション等の国宝、重要文化財、重要美術品を含む世界的なレベルの館蔵品を、その魅力を最大限引き出した展示方法や展示室での作品構成などにより、多様な切り口から鑑賞できるようにする。

工事休館中は、海外の交流のある館においてコレクション展を実施する。

3) 自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化（14）

学芸員の調査研究の成果をもとに、コレクションを最大限活用しながら、国内外の美術館・博物館等と連携しつつ、当館の特徴を活かした魅力ある独自企画の特別展を開催する。

ア　コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施する。

【令和８年度目標】

特別展「MOCO コレクション オムニバスー初公開・久々の公開－PART2」：25,000 人

イ　海外の美術館・博物館と連携し、当館コレクションを活用した充実した企画の展覧会への作品貸与等を通じて、当館コレクションの魅力を諸外国にも発信する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（15）

ア　中学生以下の子どもとその保護者を対象（イベントの趣旨にご理解をいただける方を含む。）としたファミリースペシャルデーを、７月 27 日に開催する。

イ　ＧＷ期間中の４月 27 日および夏休み期間中の７月 27 日は休館日であるが、臨時開館とする。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施（16）

「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に、大阪中之島美術館や科学館とともに参画し、連携事業や共同広報を推進する。

6) 博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（17）

作品の保存状況や展覧会の趣旨等を踏まえ、国内外の美術館・博物館等へ所蔵作品の貸出しを行い、さまざまな地域の人々に当館館蔵品の魅力を発信する。

7) 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開（18）

安定した収入源の確保を目的として、フォトウェディングを中心としたユニークベニュー事業を継続的に実施し、当館の建物・設備等を活用した魅力発信を行う。また、民間事業者や関係機関と連携し、新たなユニークベニュー事業の拡充について協議・検討を行う。

(3) 国際的な連携及び発信

1) 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等（19）

国際会議やシンポジウム等において、当館学芸員の調査研究等の活動成果の発表を行う。

2) 海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成（20）

ア　国内外の関連機関と連携し、共同研究や学術交流等を展開する。

イ　令和５年 11 月に締結した台北・國立故宮博物院との姉妹館提携に係る協定内容の見直しを行う。

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（再掲）（21）

作品の保存状況や展覧会の趣旨等を踏まえ、国内外の美術館・博物館等へ所蔵作品の貸出しを行い、さまざまな地域の人々に当館館蔵品の魅力を発信する。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（22）

大阪博で選定した「大阪の宝」20 点について、生成ＡＩ等のデジタル技術を活用した作品紹介のショート動画を作成し、Ｂｌｏｏｍｂｅｒｇ Ｃｏｎｎｅｃｔｓや公式ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルを通じて発信することで、作品の魅力を分かりやすく伝え、当館への関心を高め、来館促進につなげる。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開（23）

ア　最適な時期を踏まえ、ターゲティングを活用した戦略的なＷｅｂ広報を展開する。

イ　アクセス解析を通して広報効果を把握し、より効果的な広報を展開する。

ウ　入館者アンケートについて、現状に即した内容に改訂した上で調査を実施する。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開（24）

ア　Ｗｅｂ広報媒体などに関する広告業務の一部代行業者との協働により、エビデンスに基づいた広報戦略を検討する。

イ　国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果等を発信する。

ウ　新聞やテレビ等のメディアでの紹介や取材協力により館蔵品に関する研究成果等を発信する。

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開（25）

ア　クリエイティブアイランド中之島実行委員会への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報等を推進する。

イ　社会教育機関等を利用した講座や講演会等の開催に協力して、施設との広報連携を進める。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信（26）

ア　公式ウェブサイト、ＹｏｕＴｕｂｅ、Ｘ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ等のＳＮＳを通して、展覧会情報や館蔵品情報等を継続的に発信していく。

イ　調査研究その他の活動の成果をウェブサイトや雑誌等によって公表する。

２　幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1）2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）（27）

大阪博で選定した「大阪の宝」20 点について、生成ＡＩ等のデジタル技術を活用した作品紹介のショート動画を作成し、Ｂｌｏｏｍｂｅｒｇ Ｃｏｎｎｅｃｔｓや公式ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルを通じて発信することで、作品の魅力を分かりやすく伝え、当館への関心を高め、来館促進につなげる。

2）所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

安宅コレクションや李秉昌コレクション等の国宝、重要文化財、重要美術品を含む世界的なレベルの館蔵品を、その魅力を最大限引き出した展示方法や展示室での作品構成などにより、多様な切り口から鑑賞できるようにする。

工事休館中は、海外の交流のある館においてコレクション展を実施する。

3）文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催（29）

新聞社や放送局関連のマスメディアとの連携・共催による特別展を企画・開催し、ＳＮＳを中心としたＷｅｂ広報を推進するとともに、地域の様々な施設・機関との連携による共同広報の充実やチケット販売の促進を図る。

【令和８年度目標】

特別展「MOCO コレクション オムニバスー初公開・久々の公開－PART2」：25,000 人（再掲）

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

ア　中学生以下の子どもとその保護者を対象(イベントの趣旨にご理解をいただける方を含む。)としたファミリースペシャルデーを、７月 27 日に開催する。

イ　ＧＷ期間中の４月 27 日および夏休み期間中の７月 27 日は休館日であるが、臨時開館とする。

5）多言語表記やＩＣＴの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

ア　主要館蔵品 61 件について、多言語対応の無料解説アプリ「ポケット学芸員」の提供を行う。※対応言語数：5 か国語［日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語］

イ　インバウンド来館者の利便性向上を目的として、ＱＲトランスレーターを活用した館内パンフレットのペーパーレス化を推進する。※対応言語数：11 か国語［日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語］

6）施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

リニューアル開館に合わせて実施したエントランス棟と展示室でのピクトサイン、キャラクター、数字、色彩等を活用したサイン表示を踏まえ、より来館者に分かりやすい案内・誘導に努める。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携（33）

「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に、大阪中之島美術館や科学館とともに参画し、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報を推進する。

(3) 民間企業等との協働等

1） 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実（34）

ア　カフェ、ショップ事業者との連携を強化し、当館の特色を活かした商品・サービスの充実を図る。

イ　カフェにおいては、展覧会や当館コレクションをモチーフとしたオリジナルメニューの開発・提供を継続するとともに、令和８年８月からの工事休館中は、初めてとなるカフェ単独の営業を実施する。また、工事休館中においても当館の魅力発信の拠点として位置づけ、限定メニューの提供やSNS等による情報発信を行い、来館動機の創出や将来の来館者数増加につなげる。

2）民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発（35）

ショップにおいては、当館作品や陶磁器文化をテーマとしたオリジナル商品の開発を引き続き推進するとともに、民間事業者のノウハウを活かした商品展開や販売手法の工夫により、満足度の高い商品提供を目指す。

3）各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援（36）

出版社等との書籍類の開発をはじめとする民間事業者との直接的な協働や、オープンデータ化した館蔵品画像を活用した出版事業・商品開発を促進する。

３　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援（37）

家族連れや児童・生徒等を対象としたワークショップやイベントの企画を進める。

(2) 幅広い来館者への支援（38）

ア　市民の多様な学習ニーズに対応し、コレクションや展覧会に関連する初心者向けの講演会や講座等の教育普及事業を実施する。

イ　博物館学を開講する大学における見学実習の受入れ等について、無理のない範囲で実施する。

(3) 参画機会の提供

1）ボランティアやＮＰＯ等の各館への活動の参画の促進（39）

ボランティアによる活動については、当館の運営体制や来館者ニーズの変化を踏まえ、活動内容や関わり方の在り方を見直し、より適切な参画の形について検討する。

2）各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定（40）

ボランティアによる活動については、当館の運営体制や来館者ニーズの変化を踏まえ、活動内容や関わり方の在り方を見直し、より適切な参画の形について検討する。（再掲）

大阪市立科学館

（前　　文）

館の使命として、「科学を楽しむ文化の振興」を図る。主に物理学・化学・天文学・気象学・科学史・科学技術の各分野について、調査研究、資料の収集・保存、展示公開、プラネタリウムの投影及びその他の教育普及等の事業を行う。

令和８年度は、令和６年度にリニューアルした常設展示場１階企画フロアを、他の博物館や研究機関との協働により先端研究分野や時勢を踏まえた話題を企画展示のテーマに取り上げることで、更に充実させる。具体的には、明石市立天文科学館とは、時の記念日にあわせた「時を知りたい」展、大阪管区気象台とは昭和南海地震 80 年を踏まえた「地震の科学展（仮）」、京都大学化学研究所とは化学研究所 100 年にあわせた「時を超える化学」展等を開催する。

また、最新の知見を折り込んだプラネタリウム全天周映像を独自に企画・製作し、当館での上映後は国内外の科学館等に有償供与することで、プラネタリウムによる天文学普及の一翼を担う。今年度はオリジナル作品として銀河系内での太陽の移動を盛り込んだ「星の一生（仮）」を夏季番組として公開する。

第１　住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

１　博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア　専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（１）

ア　科学館活動に関連する各種学会、研究会、研修会等に随時参加して、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。

イ　プラネタリウム、サイエンスショー及び企画展の制作時と制作後の組織内評価並びに来館者アンケートをとおして学芸員の事業企画に係る資質向上を図る。

ウ　市民向けワークショップ等の事業の計画・実施に向けた試行を行い、スキルや職員の本事業実施に対する意識の向上を図る。

2) 博物館等資料に関する調査研究（２）

ア　館蔵資料等関連資料に関する基礎研究や科学教育に関する実践的研究等を継続的に進め、結果を展示もしくは口頭発表や論文・著作物として公表する。

イ　プラネタリウムのテーマ解説の製作にあたって、当該分野の最近の研究の進展が解説内容に取り入れられるよう調査と研究を行う。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（３）

日本博物館協会をはじめとした関連団体や文化庁の研究会・研修会等に参加し、博物館マネジメントや資料の収集ポリシーや手続き、収蔵スペースに関する課題など、資料保管や管理に関する新しい情報の収集に努める。

また、資料保存担当の学芸員と連携を図り、当館の貴重収蔵品の環境についての現状確認と、環境改善の方策を模索する。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（４）

ア　全国科学館連携協議会、全国科学博物館協議会、全国理工系学芸員会議など関連団体の展示手法に関する研修に参加する等、最新の情報の収集に努める。

イ　サイエンスガイド等ボランティアから展示物等について意見聴取し、展示物等の改善・改修のための調査を行う。

ウ　各種企画展で、その企画展に該当する当館所蔵資料類の調査研究結果の公開等を始めとする、当館所蔵資料の活用をはかる。

5）博物館等の運営に関する調査研究及び評価（５）

ア　展示・プラネタリウム・サイエンスショー等各種事業に関して、アンケートにより入館者の満足度等を調査し、館の運営、事業内容の改善を行う。

イ　日本博物館協会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会をはじめとした関係団体の研究会等に参加し、運営に関する情報を収集する。

ウ　来館者の時期による来場者数の内訳・変動から、翌年度以降の事業の在り方、内容を検討していく。

イ　資料の充実

6）博物館等資料の収集、整理及び提供（６）

ア　物理学、化学、天文学、気象学、科学史、科学技術を中心とした分野の新規資料を収集する。

イ　科学における「現象」そのものを展示化するための調査研究を行う。

ウ　当館が持つ資料・展示物画像の有償提供を行う。

エ　継続的に図書、研究図書の収集を行う。

オ　企画展において、機構内外の他館からの資料の借用を通じて当館所蔵品だけでは賄えない理化学的内容を扱い、展示を充実させる。

7）博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（７）

ア　当館資料についてＥｘｃｅｌでの台帳管理から、専用管理ソフトで管理するための移行作業を実施し、メタデータを含め３年程度で移行する。

イ　当館の可動展示品は博物館資料でもあるが、利用者の多さ、特に平日午前の団体利用者の過密による、来館者体験の低下を防ぐため、受け入れ人数の上限を設定する等の対応を検討する。

8）防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（８）

館蔵品定期検査要綱に基づき、館蔵品の点検を行い、必要に応じて保守、修繕を実施し、館蔵品の健全な保全状態を維持する。

9）ＩＣＴを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（９）

ア　館蔵品資料管理のためのデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進めるとともに、広報や画像提供サービスに利用する。

イ　展示場の展示物の各解説について学芸員によるＹｏｕＴｕｂｅ解説映像を制作、公開する。

ウ　施設及び設備の充実

10） 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

ア　プラネタリウム番組において、英語ナレーションを用意し、副音声での提供を試行する。

イ　ＱＲトランスレーターを使用して、館のリーフレットを 15 か国語（日本語を含む）に対応させ、海外からの来館者対応を行う。

ウ　館内案内ではＪＩＳピクトの使用し、利用者に分かりやすい館案内を行う。また、必要に応じて日英文字での表示を行う。

エ　サイエンスステージ改修の検討を行う。

オ　施設管理課とともに照明器具ＬＥＤ化、非常用発電機更新の修繕計画を履行できるようにする。

11） バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

ア　施設管理課と調整の上、第２期中計画期間中（令和９年度頃）予定をしている展示場各階のトイレ改修についての事前調査を始める。

イ　施設管理課とともに照明器具ＬＥＤ化、非常用発電機更新の修繕計画を履行できるようにする。（再掲）

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1）2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

ア　「大阪の宝」で選定した資料をはじめ、当館所蔵の資料の情報をオンライン等で積極的に発信する。

イ　万博等に関連した資料を展示等紹介し、使用された科学技術や万博の意義等を来館者に解説する。

2）所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

物理学・化学・天文学・気象学・科学史・科学技術に関する書物、実験装置及び、観測装置等の実物・複製資料の展示並びに現象を確認できる体験型展示を行う。

また、展示化が困難な現象については、サイエンスショーによって幅広い年齢層に対する科学への興味関心を高める。

ア　「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、１階から４階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。

【令和８年度目標】常設展示入場者 428,000 人

イ　実験装置・観測装置等の実物資料の静態展示や、体験型展示を設置する。

ウ　展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示する。

エ　企画展示コーナーにおいて、企画展等で所蔵コレクションを公開する。

3）自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化（14）

プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、年４回テーマを変え公開する。

また、館蔵品や調査研究成果を活用した企画展（年３回程度）や、博物館、大学及びその他団体等、地域の多様な主体との連携による展示等を実施する。

ア　プラネタリウムの新プログラムを３か月に１本制作・投影するほか、適宜「学芸員スペシャル」等の特別プログラムを実施する。

【令和８年度目標】プラネタリウム入場者数 337,000 人

イ　プラネタリウムや展示等の各種事業において学芸員の専門性を生かし、幅広い年齢層にアピールするプログラムを開発する。

ウ　企画展「時を知りたい」、「地震の科学」、「カプラ展」、「カガクノミカタ」、「時を超える化学」を実施し、市民の科学への興味を喚起する。

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（15）

例年多数の来館者で混雑する土日祝日とお盆時期については、プラネタリウムの追加投影を行い、プラネタリウムを１時間を延長し、来館者ニーズに応える。

5）博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施（16）

大阪中之島美術館との連携による分野横断的な普及事業を実施する。また、地域連携であるクリエイティブアイランド中之島の一員として大阪中之島美術館、東洋陶磁美術館等と連携した事業を行う。

6）博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（17）

ア　資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

イ　他の科学館等に対して当館が自主製作したプラネタリウム番組を配給する。

ウ　大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。また、企画展「時を超える化学」では、京都大学との連携により、京都大学による科学（化学）研究の進展による国内の科学の発展について当館資料とともに紹介を行う。

エ　気象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。

オ　全国理工系学芸員会議をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有や協働を行う。また、日本プラネタリウム協議会との協働、福岡市で行われる国際プラネタリウム協会（ＩＰＳ）への協力・参加を行う。

7）各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開（18）

利用料金の上限設定が大阪市により改定されたが、プラネタリウム保守などの開館・休館日等との体制の整理が難しく、ユニークベニュー実施希望者より相談があった場合、実施の可能性を検討する。

(3) 国際的な連携及び発信

1）国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等（19）

2026 年の国際プラネタリウム協会（ＩＰＳ）福岡大会において、実践報告をはじめとした活動成果の発表等を行う。

2）海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成（20）

2026 年の国際プラネタリウム協会（ＩＰＳ）福岡大会において、当館はエクスカーション会場として協力、また大会に参加、発表等も行い、海外のプラネタリウ関係者との交流をはかり、研究のネットワークを広げる。

3）博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（再掲）(21)

国内外の博物館を問わず、必要に応じて資料の貸出し、借用を行う。

ア　資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。（再掲）

イ　他の科学館等に対して当館が自主製作したプラネタリウム番組を配給する。（再掲）

ウ　大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。また、企画展「時を超える化学」では、京都大学との連携により、京都大学による科学（化学）研究の進展による国内の科学の発展について当館資料とともに紹介を行う。（再掲）

エ　気象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。（再掲）

オ　全国理工系学芸員会議をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有や協働を行う。また、日本プラネタリウム協議会との協働、福岡市で行われる国際プラネタリウム協会（ＩＰＳ）への協力・参加を行う。（再掲）

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1）2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（22）

引き続き大阪博で紹介している展示の一部は、常設展示として設置し、展示資料の公開に当たる。また、当館公式ホームページにおいても大阪博のバナーを掲載し、閲覧者への便宜を図る。

2）エビデンスに基づいた戦略的広報の展開（23）

ア　来館者アンケートやホームページのアクセスチェック、ＳＮＳの反応分析等を実施して、事業に関するニーズを把握し、各種会議で共有を図りＳＮＳやホームページ、チラシ等の広報媒体を有効に用いた広報活動を行う。

イ　各種活動を広く紹介する広報誌、月刊誌「うちゅう」を発行し、市内外施設や友の会会員など効果的な配布を行う。

3）学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開（24）

情報誌・新聞・テレビ・ラジオなど様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。

4）他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開（25）

ア　大阪市立東洋陶磁美術館や大阪中之島美術館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

イ　生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。

ウ　Ｏｓａｋａ Ｍｅｔｒｏ、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。

エ　当機構と生涯学習センターとの連携事業で実施する講演会等に学芸員を派遣し、講師等を務める。

5）多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信（26）

ア　学芸員の調査研究成果などを、研究報告の出版や学会発表、ホームページ等を通じて公開する。

イ　月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。

ウ　３か月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動を広く紹介する営業ツールとし、情報発信とともに参加者を広く募る。

エ　適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。

オ　ＳＮＳツールを利用した情報発信を行う。

カ　学芸員の執筆によるミニブックを発行する。

キ　学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。

２　幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1）2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）（27）

引き続き大阪博で紹介している展示の一部は、常設展示として設置し、当館公式ホームページにおいても大阪博のバナーを掲載し、閲覧者への便宜を図る。

2）所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

ア　「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、１階から４階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショー等の演示を行う。

【令和８年度目標】常設展示入場者 428,000 人

イ　実験装置・観測装置等の実物資料の静態展示や、体験型展示を設置する。

ウ　展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示する。

エ　企画展示コーナーにおいて、企画展などで所蔵コレクションを公開する。

3）文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催（29）

近隣の大阪中之島美術館、国立国際美術館、クリエイティブアイランド中之島の参加施設などと連携した活動を行い、新規来館者の増加に努める。

企画展「カガクノミカタ」では、ＮＨＫ教育番組のリソースを利用する。ＮＨＫの映像制作能力によって作られた映像を展開することで、企画展の魅力を高めること、また当館閑散期に開催することで集客力を高めていく。

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

例年多数の来館者で混雑する土日祝日とお盆時期については、プラネタリウムの追加投影を行い、プラネタリウムを１時間を延長し、来館者ニーズに応える。

5）多言語表記やＩＣＴの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

ア　ＯＳＡＫＡ　Ｆｒｅｅ　Ｗｉ－ｆｉを活用し、多言語コンテンツへの円滑なアクセス環境を維持・向上させる。

イ　施設案内サインの多言語表記・ピクトグラムについて、外国人来館者の利用状況を踏まえた改善・追加を行う。

ウ　救護室、おむつ交換用ベビーベッド、授乳専用のスペース等、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。

エ　展示解説文をＱＲコードを利用して、日英中韓の４か国語で紹介する。また、当館公式ＨＰでも公開する。

6）施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

昨年度に整備した施設案内等の多言語表記について、日本語・英語を中心に内容の充実を図るとともに、案内用ピクトグラムを活用し、多様な来館者に配慮した分かりやすい案内表示の定着を図る。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携（33）

ア　Ｏｓａｋａ Ｍｅｔｒｏ、京阪電鉄等の交通機関にポスターを掲示する。

イ　Ｏｓａｋａ Ｍｅｔｒｏ、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。（再掲）

ウ　中之島地域の各組織が連携したクリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加して連携に協力し、中之島パビリオンフェスティバル等の連携事業に参加・実施する。

エ　中之島地域のエリアネットワーク（中之島ウエスト・エリアプロモーション等）と連携したイベントに協力、実施する。

(3) 民間企業等との協働等

1）各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実（34）

科学館の便益施設であるカフェおよびミュージアムショップについて、選定した民間事業者と連携し一体的な運営を行うとともに、展示やプラネタリウムと連動したコラボメニューやコラボグッズを展開することで、大人も含む幅広い年齢層への満足度向上を図り、来館動機の多様化及び新たな収益の確保につなげる。

2）民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発（35）

科学館の便益施設であるカフェおよびミュージアムショップについて、選定した民間事業者と連携し一体的な運営を行うとともに、展示やプラネタリウムと連動したコラボメニューやコラボグッズを展開することで、大人も含む幅広い年齢層への満足度向上を図り、来館動機の多様化及び新たな収益の確保につなげる。（再掲）

3）各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援（36）

館蔵資料や展示物の画像データの提供、専門的な問い合わせ・取材対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。

３　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援（37）

ア　学習指導要領に対応した新展示場ワークシートを公開する。

イ　学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、観覧者に天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料について、デジタル配布を行い、学校での利用における利便性をはかる。

ウ　小学校５・６年生を対象とした会員制事業「ジュニア科学クラブ」を実施する。

エ　幼稚園児や小学校低学年とその家族を主な対象としたプラネタリウム「ファミリータイム」の投影を実施する。

オ　大阪市立の小・中学校等の教員を対象に、サイエンスショーやワークショップの内容について研修を行い、科学についての知識向上の機会を提供する。

(2) 幅広い来館者への支援（38）

ア　プラネタリウム番組において、英語ナレーションを用意し、副音声での提供を行う。

イ　キャンパスメンバーズ対応館であることをＰＲし、大学生等の来館を促す。

ウ　博物館実習を実施し、学芸員資格の取得を目指す学生の支援を行う。

エ　市井の研究者と学芸員の協働による中之島科学研究所事業を行う。

オ　大阪教育大学の教育コラボレーション演習に協力し、学生を受け入れ指導する。

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやＮＰＯ等の各館への活動の参画の促進（39）

ア　各種友の会活動等への学芸員が協力を行い、科学に対して興味関心の高い住民に対する専門的な助言等の支援を行う。

イ　ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施するほか、ジュニア科学クラブをはじめとした大阪市立科学館の各種活動を支援する。

ウ　当館ボランティアによる有志「ＳＣＩＥＮＣＥ　ｄｅ　ＤＯＹＡ」の活動を支援する。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定（40）

サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、展示や普及活動に関して意見交換する。

3) さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励（41）

ア　サイエンスガイドや科学デモンストレーターによるボランティア活動､友の会有志による、自主的な活動を支援する。

イ　当館ボランティアによる有志「ＳＣＩＥＮＣＥ　ｄｅ　ＤＯＹＡ」による実験ショーと連動した普及事業を実施する（外部資金獲得時）。

ウ　科学に関する冊子を制作するグループと市民が交流するサイエンスブックフェスタを開催する。

エ　科学実験大会を開催する。

大阪歴史博物館

（前　　文）

館の使命である「歴史と対話し、現在、そして未来を考える」の実現を目指す。

都市大阪の歴史及び文化やその他の関連する資料について、調査研究、保存、管理、収集、展示教育普及等の事業を行う。

増加する海外からの来館者に対応するための施設整備や、展示場内での情報提供について新たな運用システム構築作業を進めるとともに、新たな民間企業とのパートナーシップ導入を基軸として更なる魅力的な活動を実現し、幅広い来館者・利用者の獲得と満足度の向上を実現する。

第１　住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

１　博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア　専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（１）

ア　館の活動を支える人材を確保し、適切な職員配置、業務分担などを模索する。

【令和６年度実績】新規採用：4 人　職員数：32 人（うち学芸員 20 人）

イ　職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め、参加機会を得る。

【令和６年度実績】研修４回、参加者８人

【令和８年度目標】研修４回、参加者５人

2) 博物館等資料に関する調査研究（２）

ア　館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。

【令和６年度実績】

共同研究事業２本、基礎研究事業１本

著書・論文数 56 件、研究発表 95 件

【令和８年度目標】

共同研究事業２本、基礎研究事業２本

著書・論文数 50 件、研究発表 60 件

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（３）

ア　博物館資料の保管にかかわる情報を研修や研究会などを通じて収集し、その研究で得た成果を活かす。

【令和６年度実績】

エキヒュームＳによる最後の燻蒸の実施とともに、二酸化炭素殺虫処理の実施方法を確定、特別展示室のケース改修、新規ケースの導入

【令和８年度目標】

二酸化炭素殺虫処理 2 回、収蔵庫内生物調査 2 回を実施し、資料の虫菌害を防止する

イ　展示ケースの劣化度合いを調査し、修理可能なケースは修理計画を、修理不能なケースは廃棄計画を立て、安全な展示作業環境を整備する。また、補充導入するケースについても調査を行う。

4）博物館等資料の展示に関する調査研究（４）

博物館資料の展示にかかわる情報を他館や研究会等を通じて収集し、その研究で得た成果を活かす。

5）博物館等の運営に関する調査研究及び評価（５）

ア　他館の事例研究や研究会等への参画を通じて、博物館運営に関する調査・研究を実施する。

イ　効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象としたアンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。

【令和６年度実績】来館者アンケート随時、特別展２回、特別企画展２回、特集展示６回

【令和８年度目標】来館者アンケート随時、特別展２回、特集展示５回

ウ　展覧会事業を館内組織で事後検証し、以後の企画立案に活用する。

【令和６年度実績】展覧会事後分析４回

【令和８年度目標】展覧会事後分析２回

エ　事務局と連携し、事務局において収集したマーケティング・リサーチ結果やビッグデータを活用し、戦略的な広報を展開する。

イ　資料の充実

6）博物館等資料の収集、整理及び提供（６）

ア　歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、収蔵庫の空きスペースを勘案しながら、購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。

【令和６年度実績】購入０件０点、寄贈 337 件 489 点

イ　収蔵庫の空きスペースを勘案しながら、博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。

【令和６年度実績】寄託０件０点

ウ　継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。

【令和６年度実績】館蔵資料撮影 26 カット、マイクロフィルム撮影０カット

エ　住民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行い、年度内を目途にデータベースへの登録を進める。

【令和６年度実績】図書 2,361 点

7）博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（７）

館蔵資料の状態を勘案した修復の短期計画を作成し、優先順位の高いものから修復を行う。

【令和６年度実績】修復４件

【令和８年度目標】修復２件

8）防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（８）

ア　収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。

イ　出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。

ウ　防犯・防災システムを適切に運用する。

エ　新規受入資料の登録を継続的に行う。

【令和６年度実績】燻蒸庫燻蒸２回、収蔵庫内生物調査１回

【令和８年度目標】二酸化炭素殺虫処理２回、収蔵庫内生物調査２回

9）ＩＣＴを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（９）

統合データベースへの登録を推進するため、新規資料撮影等の様々なデジタル化を実施し、既存の資料のアーカイブ化を進める。

【令和６年度実績】アーカイブ化 26 カット

ウ　施設及び設備の充実

10）博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

展示室における適正な展示環境の維持や、照明のＬＥＤ化に取り組む。また、増加する海外からの来館者に対応するための施設整備や、令和 7 年度に実施した情報システム更新にかかる設計に基づき、各種サーバー等の更新を行う。

ア　館内照明のＬＥＤ化については、令和８年度から４か年にわたって着手する。老朽化し展示ケースや展示機器の状況を把握し、修理や備品類新調など適宜対応する。

イ　展示改修基本計画に基づき、活動の見直しや展示の部分改修へ向けての準備を進める。

ウ　改修した特別展示室の展示ケースの空気環境を維持し、未改修ケースについても可能な限り展示環境の改善を図る。

エ　インバウンドや日本人観覧者の利便性を高めるために、展示室のネットワーク環境の活用を進める。

オ　公開承認施設として認可された展示環境を維持する。

11）バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

ア　2023 年度に認定された「観光庁／観光施設における心のバリアフリー認定制度」に基づき館内の充実を図る。

イ　海外からの来館者など様々な利用者を念頭においてユニバーサルデザイン対応を進める。

ウ　震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を情報収集し館内で協議を進める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1）2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

2025 年大阪・関西万博における「大阪博」コンテンツをより充実させ、画像や解説についてアーカイブ化を進める。

2）所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

第１期で整備したインターネット環境を活用した柔軟性のある展示空間をつくる。展示更新を行い、展示機会の少なかった館蔵品、寄託品の展示を行う。さらに展示場を会場とした事業を実施することにより、ソフト面でも展示場の魅力を向上する。

ア　古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などを通じて展示する。

【令和６年度実績】常設展示入場者 262,309 人

【令和８年度目標】常設展示入場者 329,000 人

イ　最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取組む。

【令和６年度実績】テーマ展示１回、展示更新 59 回

【令和８年度目標】テーマ展示２回、展示更新 40 回

ウ　館蔵資料及び市内出土の考古資料等を紹介するため、５本の特集展示を実施する。

・たんけん！となりの町工場　４月８日～６月 29 日

・新収品お披露目展　７月１日～９月７日

・新発見！なにわの考古学 2026　　９月９日～11 月 23 日

・千日前の興行師・奥田辨次郎　11 月 25 日～２月１日

・中世・大阪の城をさぐる　２月３日～４月 12 日

エ　様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表記の充実を図る。

オ　個人端末による音声ガイド（多言語）を活用し、展示の理解度を高める。

カ　常設展示の理解を促進するためにハンズオンを実施する。

3）自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化（14）

国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、館蔵品を活かした自主企画展を開催する。

ア　当館が主体となって企画する特別展を１本実施する。

・「小泉八雲― 怪談とフォークロリストのまなざし―」目標来館者数 29,800 人

【令和６年度実績】

「難波宮発掘開始 70 周年記念 大化改新の地、難波宮 ―古代日本のターニングポイント―」（自主企画）

イ　館内設備工事により常設展示枠内で特別展示室を活用した特別企画展は開催しない。

【令和６年度実績】

「おおさか街あるき―キタ・ミナミ―」（自主企画）

「発掘！大名たちの蔵屋敷－「天下の台所」に集う米・物・人－」（自主企画）

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（15）

特別展や特別企画展などでの限定開館や、常設展での特別感のあるコンテンツとして、開館時間帯にとらわれないフレキシブルな対応を行う。

5）博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施（16）

ア　特別企画展「大阪市博物館機構連携企画　大阪の宝 in 大阪歴史博物館」の開催成果の活用を推進するとともに、法人の複数館と連携した企画（企画展、特別展を含む）を策定し、実施する。

【令和６年度実績】

・大阪市立美術館改修に伴う資料仮置き・仮事務所設置、および特別展「日本国宝展」

への協力

・大阪市立科学館企画展「万博で夢見たサイエンス展」への協力

イ　文化庁等の補助金、博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。

ウ　大阪市立美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。

6）博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（17）

ア　資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑み、継続して各館への資料貸出し及び借用を行い、館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。

【令和６年度実績】

貸出資料　12 件 80 点

借用資料　特別展２本:254 件 550 点、特別企画展１本:約 60 件 432 点、
特集展示４本:686 件 719 点

イ　常設展において文化庁や大阪市教育委員会等から資料を年間借用し、展示の充実を図る。

【令和６年度実績】借用６件 1,486 点

ウ　関係機関と包括連携協定を結び、資料の活用や展示環境調査への協力を得る。

【令和６年度実績】

包括連携協定：（一財）大阪市文化財協会・大阪市教育委員会・大阪府教育委員会・近つ飛鳥博物館

共同研究：江戸東京博物館

【令和８年度目標】

包括連携協定：大阪府教育委員会・近つ飛鳥博物館

資料の利用にかかる協定：大阪市教育委員会

共同研究：江戸東京博物館

エ　東日本大震災を機に発足した全国歴史民俗系博物館協議会の幹事館として、災害時のネットワーク機能を果たす。

7）各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開（18）

ア　博物館の地下や周辺に保存されている難波宮の遺構についてガイドツアーを実施する。

【令和６年度実績】「難波宮遺跡探訪」参加者 2,796 人

【令和８年度目標】「難波宮遺跡探訪」参加者 3,000 人

イ　大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。

(3) 国際的な連携及び発信

1）国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等（19）

国際会議やシンポジウム等において各種活動成果の発表を行う。

【令和６年度実績】研究発表 95 件（国内 94 件、国外１件）

【令和８年度目標】研究発表 60 件

2）海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成（20）

ア　韓国・国立大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流など、韓国や中国の博物館との交流についての情報交換を行う。

イ　世界の博物館等関係機関の視察を受け入れ、博物館運営についての情報を収集する。

【令和６年度実績】視察：８件

3) 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（再掲）（21）

台湾故宮博物院南院の展覧会「地緣政治的國際萬象−十四至十九世紀的東亞世界」（令和８年２月 15 日～５月 10 日）に館蔵品を出品し、撤収作業に学芸員を派遣する。

【令和８年度目標】貸出資料９件 10 点

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（22）

事務局と連携した広報活動を実施する。

2) エビデンスに基づいた戦略的広報の展開（23）

ア　特別展・特別企画展、特集展示及び常設展示のアンケートを実施し、その分析により有効な広報手法を模索する。

【令和６年度実績】アンケート実施　特別展２回、特別企画展２回、特集展示６回

【令和８年度目標】アンケート実施　特別展２回、特集展示５回

イ　ホームページ、Ｘ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ、ＹｏｕＴｕｂｅでの情報発信を継続して行う。

【令和６年度実績】Ｘ投稿 414 件、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ投稿 433 件

【令和７年度目標】Ｘ投稿 300 件以上、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ投稿 300 件以上

ウ　事業に応じてＳＮＳと紐づけたＷｅｂ広告を実施し、発信力を高めるとともに実施レポートにより有効な広報ターゲット、メディアを選択する。

3) 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開（24）

ア　地域の広報誌や新聞誌上等への寄稿を行い、専門情報の発信を行う。

【令和６年度実績】「ＭＡＣＨＩＮＡＭＩ」、産経新聞、日本経済新聞（２件）など

イ　様々なメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。

【令和６年度実績】ＮＨＫ総合「ほっと関西」nan で nan？（２件）・ええやんトレンド＆カルチャー、ＮＨＫラジオ第一「関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱～大阪歴史散策」（６件）など

4) 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開（25）

ア　大阪市生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を定期的に提供する。

イ　本法人が連携開催する「ミュージアム連続講座」へ講師派遣を行う。

5) 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信（26）

ア　年１号の研究紀要を継続的に発行し、データをＷｅｂ上に公開する。

【令和６年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第 23 号

【令和８年度目標】「大阪歴史博物館研究紀要」第 25 号

イ　共同研究報告書、館蔵資料集等を計画的に発行する。

【令和６年度実績】「共同研究成果報告書 17　大阪市の中世城館」

【令和８年度目標】「大阪歴史博物館　館蔵資料集」の発行

ウ　年報の作成及びホームページ上での公開を通じ、館の活動を周知する。

【令和６年度実績】「大阪歴史博物館年報」令和５年度

【令和８年度目標】「大阪歴史博物館年報」令和７年度

エ　自主企画展（特別展・特別企画展）において、図録・リーフレット等を作成する。

【令和６年度実績】図録：特別展１種、リーフレット：特別企画展２種

オ　特集展示リーフレットを作成するとともに、その内容をホームページで公開する。

【令和６年度実績】特集展示７本

【令和８年度目標】特集展示５本

カ　ホームページ、X、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ、ＹｏｕＴｕｂｅでの情報発信を継続して行う。（再掲）

【令和６年度実績】X投稿 414 件、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ投稿 433 件

【令和８年度目標】X投稿 300 件以上、Ｉｎｓｔａｇｒａｍ投稿 300 件以上

キ　事務局で導入されたプレスリリース配信サービスを活用し、プレス情報を配信する。

2　幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）（27）

事務局と連携した広報活動を実施する。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

ア　古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などを通じて展示する。

【令和６年度実績】常設展示入場者 262,309 人

【令和８年度目標】常設展示入場者 329,000 人

イ　最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取組む。

【令和６年度実績】テーマ展示１回、展示更新 59 回

【令和８年度目標】テーマ展示２回、展示更新 40 回

ウ　館蔵資料及び市内出土の考古資料等を紹介するため、５本の特集展示を実施する。

・たんけん！となりの町工場　４月８日～６月 29 日

・新収品お披露目展　７月１日～９月７日

・新発見！なにわの考古学 2026　９月９日～11 月 23 日

・千日前の興行師・奥田辨次郎　11 月 25 日～２月１日

・中世・大阪の城をさぐる　２月３日～４月 12 日

エ　様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表記の充実を図る。

オ　個人端末による音声ガイド（多言語）を活用し、展示の理解度を高める。

カ　常設展示の理解を促進するためにハンズオンを実施する。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催（29）

マスメディア等と連携した特別展・特別企画展を誘致するとともに、館蔵品を活かし、国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携した自主企画により、特別展・特別企画展を開催する。観光関連事業者等と連携した広報展開を模索する。

ア　在阪の新聞社・放送局等と平素より展覧会企画に関する情報交換を行い誘致に努め、特別展２本を開催する。

【令和６年度実績】「川瀬巴水」観覧者数 29,161 人

【令和８年度目標】

「小泉八雲― 怪談とフォークロリストのまなざし―」観覧者数 29,800 人（再掲）

ＮＨＫ大河ドラマ特別展「豊臣兄弟！」観覧者数 49,920 人

イ　Ｏｓａｋａ Ｍｅｔｒｏ 駅構内でのポスター掲示の継続や、各鉄道事業者の事業への協力などを通じての広報を推進する。

【令和６年度実績】

Ｏｓａｋａ Ｍｅｔｒｏ駅構内の掲示板へのポスター掲示を、特別展・特別企画展で実施

【令和８年度実績】

Ｏｓａｋａ Ｍｅｔｒｏ駅構内の掲示板へのポスター掲示を、特別展で実施

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

特別展や特別企画展等での限定開館や、常設展での特別感のあるコンテンツとして、開館時間帯にとらわれないフレキシブルな対応を行う。

5）多言語表記やＩＣＴの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

ア　様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。

イ　展示室のネットワーク環境を活用し、個人端末による音声ガイド（多言語）を充実させる。

6）施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

ア　来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進める。

イ　大阪城及び難波宮への来訪者にもわかりやすい屋外デザイン表示の拡充を進める。

ウ　様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。（再掲）

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携（33）

ア　大阪城天守閣との相互割引を検討し、新規来館者の増加に努める。

イ　Ｏｓａｋａ Ｍｅｔｒｏ駅構内でのポスター掲示の継続や各鉄道事業者の事業への協力等を通じて広報を推進する。

ウ　周辺の商業施設（もりのみやキューズモールＢＡＳＥ、近鉄百貨店各店、難波宮跡公園北部ブロック整備事業「なのにわ」など）との広報協力を継続する。

エ　「民間企業による新規事業連携」事業で採択された企業による提案をもとに「ユニークベニュー事業」や「学び×エンタメ事業」に協力して実施することで館の魅力を向上させる。

オ　大阪市で開催されている文化イベントとの関連を深めることで、博物館に関心が低い方々への周知を行う。

カ　ＮＨＫ大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、ＢＫ大感謝祭等にあわせた企画を実施する。

キ　大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。（再掲）

ク　各館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。

ケ　民間企業と協働でイベントを企画し実行する。

【令和６年度実績】クラブツーリズム５件、大阪迎賓館１件、ＪＴＢ１件

【令和８年度目標】クラブツーリズム２件、大阪迎賓館１件

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実（34）

ア　ＪＴＢコミュニケーションデザイン株式会社を代表とする事業者とともに進める「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、展覧会コラボレーションメニュー（レストラン）を展開する。各種ワークショップなどの開催など体験型メニューに力を入れる「コト消費」にシフト（ミュージアムショップ）するなど館の魅力向上に努める。

【令和６年度実績】コラボメニュー９品目　ワークショップ 10 回開催

【令和８年度目標】コラボメニュー６品目　ワークショップ８回開催

イ　来館者の属性などマーケティングデータに基づいたメニュー、サービス提供を目指す。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発（35）

「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、民間連携事業体が運営するミュージアムショップで販売するグッズの選定・開発を進める。

【令和６年度実績】５種類開発・発売

【令和８年度目標】５種類開発・発売

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援（36）

ア　館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体、住民団体の要請に応える。

【令和６年度実績】特別観覧 239 件

イ　「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、民間連携事業体が展開する「学びエンタメ事業」について、共同で事業の実施を進める。

【令和６年度実績】10 件

【令和８年度目標】８件

ウ　通常の博物館運営並びに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行する。

【令和６年度実績】２件

３　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援（37）

ア　「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」等のこども向け事業を実施する。

【令和６年度実績】

「わくわく子ども教室」実施件数５件、参加人数 307 人

「考古学体験教室」７校、参加人数 456 人

【令和８年度目標】

「わくわく子ども教室」実施件数５件

「考古学体験教室」６校

イ　教員研修への協力として「教員のための博物館の日」を実施する。またワークショップの開催等を通じて、館活動の周知と教材開発への支援を行う。

【令和６年度実績】実施件数２件、参加人数 69 人

【令和８年度目標】実施件数２件

ウ　地元の学校を対象とした郷土史学習コンテンツやイベントを共同で企画し、館への参画・利用を働きかける。

【令和６年度実績】「綿繰り体験」２校、ほか職業体験など８校

【令和８年度目標】８校

(2) 幅広い来館者への支援（38）

ア　学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連続講座・見学会などを実施する。

【令和６年度実績】講座 11 回、参加人数 1,333 人、見学会 11 回、参加人数 221 人

【令和８年度目標】講座 10 回、参加人数 1,000 人、見学会 10 回、参加人数 200 人

イ　博物館実習等を通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れるとともに、学校からの要望に応じて職業体験や出前授業を実施する。

【令和６年度実績】

博物館実習：実施２回、参加数 13 大学 38 人、見学実習９大学、参加人数 366 人、中学生向け職業体験：４校 11 名、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授等：高等学校３校

【令和８年度目標】

博物館実習：実施２回、参加人数 40 人、見学実習８大学・参加人数 300 人、中学生向け職業体験４校 10 名、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等：高等学校３校

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやＮＰＯ等の各館への活動の参画の促進（39）

ア　ボランティア活動を円滑に実施するとともに、自己研修として展示の見学、講座への参加を通じてボランティアスタッフの資質を高める。

【令和６年度実績】ボランティア登録 168 名

イ　友の会行事への参加や講師派遣などを通じて、友の会の運営を支援する。

【令和６年度実績】友の会講師派遣４回

ウ　近隣地域に活動拠点を置くＮＰＯ法人等と協働事業を実施する。

【令和６年度実績】「わくわく子ども教室」１回、参加人数 33 人

【令和８年度目標】１回実施

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定（40）

ア　メール配信や懇談会等を通じて、ボランティアとの情報共有と意見交換を行う。

【令和６年度実績】メールによる連絡随時、懇談会１回

【令和８年度目標】メールによる連絡随時、懇談会１回

イ　友の会の総会および幹事会を通じて、友の会との意見交換を行う。

【令和６年度実績】総会１回、幹事会８回

【令和８年度目標】総会１回、幹事会８回

3）さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励（41）

施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。

【令和６年度実績】凧づくりと凧揚げ１回、関西考古学の日１回、ポスター展３回、イケフェス１回（参加者９名）

【令和８年度目標】教育活動企画２回

大阪中之島美術館

（前　　文）

大阪中之島美術館の使命「①大阪と世界の近現代美術の魅力を伝えます。」「②大阪人の目で美術の新たな価値を創造します。」「③ヒト・コト・モノが行き交うプラットホームとなります。」「④大阪発の情報を世界に広めます。」を果たす。

大阪が誇る第一級の近・現代美術とデザインのコレクションを有する美術館として、展示や公開、普及活動を積極的に展開し、あわせて作品資料収集や調査研究や保存、修復等の事業を計画的かつ継続的に実施する。

ＰＦＩコンセッション方式により運営する大阪中之島美術館においては、法人が運営事業者である（株）大阪中之島ミュージアムとの定期的な対話やモニタリングを通じ、相互のパートナーシップのもと大阪中之島美術館の安定的な運営を図り中之島地区をはじめとする地域の活性化や住民サービスの向上を実現し、賑わいの創出に寄与する。

第１　住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

１　博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア　専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（１）

ア　館活動を支える学芸人材の育成に取り組む。

イ　学芸員はもとより学芸業務に関わる職員の育成と専門性の向上を推進するため、各種研修に関する情報収集を行い、参加機会の確保に努める。

2) 博物館等資料に関する調査研究（２）

館蔵品に関する調査・研究を継続的に推進する。

3) 博物館等資料の保管に関する調査研究（３）

館蔵品の保存状態を常に確認するとともに、保存に関する調査研究を進めつつ、最新の情報の収集に努める。

4) 博物館等資料の展示に関する調査研究（４）

各種の展覧会の実施を通じて、展示作品の状態に合った展示手法を検討・調査するとともに、他館や他の研究所等から最新の情報収集を行う。

5) 博物館等の運営に関する調査研究及び評価（５）

他館の事例を調査・情報を収集しつつ、営利団体のブランディングやマーケティング等にかかる手法等を調査・研究する。

イ　資料の充実

6) 博物館等資料の収集、整理及び提供（６）

ア　購入及び寄贈・寄託を通じて、美術館活動に有効な作品収集に努める。

【令和６年度実績】購入６件、寄贈等 155 件

イ　館蔵映像資料や紙資料のデジタル化を進め、その公開に努める。

7）博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復（７）

所蔵する館蔵資料について修復等の必要性が高いものから修復・額付けを進める。

【令和６年度実績】修復作品９点、額付け作品 11 点

8）防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承（８）

ア　ＩＰＭの考え方に沿って収蔵庫や展示室等の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行い、適切な環境の整備・改善に努め、作品保存を行う。

イ　貴重資料や新規に収蔵する資料については、状態を勘案し燻蒸を行うこととする。

9）ＩＣＴを活用した博物館等資料のデジタル・アーカイブ化及び有効利用（９）

ア　引き続き、未撮影収蔵作品及び新収蔵作品の撮影を計画的に進め、収蔵品データベースにて公開する。

イ　アーカイブズ情報室にて、収蔵資料をデジタル化し、その画像をデータベースで公開する。

【令和６年度実績】デジタル・アーカイブ化　619 件

ウ　アーカイブ事業の充実のため、アーカイブ資料やアーカイブ図書の整理や登録等の業務を継続して行う。

ウ　施設及び設備の充実

10）博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修（10）

利用者サービスの更なる向上を目的として、上半期に事業者と協働のもと導入作業を実施し、下半期より新たなチケット販売システムを稼働させる。

11）バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修（11）

多様な利用者の利便性の向上に資するため、展覧会開催時の来館者へのわかりやすい案内に努める。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

1）2025 年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施（12）

所蔵コレクションのアーカイブ化等により、コンテンツの充実を目指す。

2）所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（13）

所蔵コレクションの鑑賞機会の確保を図るため、令和９年度から所蔵コレクションを活用した展示を実施する準備を進める。

ア　年間８本の展覧会枠の中で２枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。

イ　４階と５階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。

3）自主企画の展覧会等の充実による展示活動の活性化（14）

大阪の美術館として地元大阪で育まれた美術に関する特別展を実施する。

館の特色を活かした特別展や、時代や社会のニーズにあった広い視点を持った特別展を実施する。

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（15）

来訪者や地元市民の来館機会を拡大するため、夏期の特別展において開館時間延長を実施する。

5）博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施（16）

ア　クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業や広報の展開を図る。

イ　中之島地区の他機関と連携した誘客策を実施する。

6）博物館等資料の貸出及び借用を含む、他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（17）

ア　作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への作品貸出を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。

イ　国内外の他館から作品・資料を借用することで、展覧会の充実を図る。

ウ　災害時の作品・資料保全のため他館の事例を参考とする。

7）各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開（18）

ホールや芝生広場等、附帯設備を活用したユニークベニューを実施するなど、引き続き幅広い事業展開を進める。

(3) 国際的な連携及び発信

1）国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等（19）

国際会議・シンポジウムの開催に向けて、国内外の美術館・美術関係者との交流を図る。

2）海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成（20）

作品の貸借を契機として海外美術館と交流を進めることにより、人的ネットワークの形成・拡大を図る。

3）博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働（再掲）（21）

作品の状態を鑑みながら可能なものの貸出を行い、他館との交流を図る。

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1）2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（22）

ＳＮＳを積極的に活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者に事前に伝わるような情報発信等を行う。

2）エビデンスに基づいた戦略的広報の展開（23）

ＳＮＳのフォロワー等の増減、ツイート数・ツイート内容などを定期的に確認し、更なる効果的な発信に努める。

3）学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開（24）

新聞、美術雑誌、地域の広報誌等の各種媒体で展覧会の広報を行う際は、学芸員による紹介を行うよう努め、研究成果を発信する。

4）他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開（25）

ア　美術関係媒体への執筆や、周辺地域の公的機関への講師派遣など幅広い広報活動に努める。

イ　「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

5）多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信（26）

ア　展覧会カタログへの論文執筆をはじめ、展覧会関連の紹介記事等を執筆し、多様な媒体に情報発信する。

イ　公式ウェブサイト、ＹｏｕＴｕｂｅ、ＩｎｓｔａｇｒａｍなどのＳＮＳを通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信していく。

【令和６年度実績】

Ｘ　投稿数 295 回

Ｉｎｓｔａｇｒａｍ　投稿数 210 回

ＹｏｕＴｕｂｅ　総再生回数 11,216 回

２　幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）（27）

ＳＮＳの活用により、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるような発信情報等を行う。

2) 所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）（28）

ア　年間８本の展覧会枠の中で２枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。

イ　４階と５階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。

3) 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致・開催（29）

ホール、芝生広場を活用し、館全体で多様な利用者が楽しむことができる機会の創出を図る。マスメディア等と連携した特別展を企画・開催する。

【令和８年度目標】

「サラ・モリス　取引権限」

「没後 50 年　髙島野十郎展」

「驚異の部屋の私たち、消滅せよ。－森村泰昌・ヤノベケンジ・やなぎみわ－」

「カール・ヴァルザー展（仮称）」

「フェルメール《真珠の耳飾りの少女》」

「ＮＨＫ日曜美術館 50 年展」

「大英博物館日本美術コレクション　百花繚乱～海を越えた江戸絵画」

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

来訪者や地元市民の来館機会を拡大するため、夏期の特別展において、開館時間延長を実施する。

5) 多言語表記やＩＣＴの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

施設案内等の多言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。

6) 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実（32）

施設案内等の多言語化や案内表示の充実により、外国人にもわかりやすい案内表示を行う。

(2) 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携（33）

ア　「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。

イ　周辺施設との誘客策に取組む。

(3) 民間企業等との協働等

1) 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実（34）

民間事業者等と連携し、展覧会にかかるミュージアムグッズの開発に努める等、来館者サービスの充実を図る。

2) 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発（35）

民間事業者等と協働したミュージアムグッズの企画と商品化等を図る。

3) 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援（36）

博物館等資料の貸出を積極的に行う。

3　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援（37）

リテラシーの向上や教員等のスキルの向上のためイベント等を実施する。

(2) 幅広い来館者への支援（38）

美術とデザイン作品を楽しみ、想像力を高めることができるプログラムを、さまざまな専門機関と連携して企画・実施する。

(3) 参画機会の提供

1) ボランティアやＮＰＯ等の各館への活動の参画の促進（39）

ＮＰＯ法人と協働し、小学生参加型のワークショップを実施する。

2) 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定（40）

館内の飲食店やショップとの定期的な意見交換等の場を通じ、利用者の意見を徴する。

機構事務局

（前　　文）

大阪市博物館機構に所属する各館が持つ力を最大限に発揮できるよう、博物館運営に関する調査研究、マーケティング、共同広報、連携事業などを実施して事業効果の増大をめざし、また事業の計画及び評価を行い、安定的な経営に資するために財務内容の改善を図るとともに、内部統制の確立に努める。

第１　住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

１　博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」

(1) 各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等の資料の充実並びに施設及び設備の整備

ア　専門的人材及び各種活動の充実

1) 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成（１）

ア　学芸員に対して、各種の研修を行い資質の向上を図る。

イ　広報やマーケティング・リサーチ等の研修を実施する等、広報・プロモーション等にかかる職員の資質向上を図る。

(2) 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上

2) 所蔵するコレクションを積極的に活用した来館者への鑑賞機会の確保（13）

ブルームバーグコネクツが提供するアプリ上で所蔵するコレクションを紹介し、各館の魅力向上を実現する。

4) 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（15）

市立美術館及び中之島美術館において、来館者の利便性の向上に資するため開館時間の延長を実施する。

5) 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施（16）

ア　2025 年度に実施した大阪博で選定した大阪の宝を、引き続き、ＷＥＢ上で紹介する。

イ　大阪公立大学との包括連携協定に基づき、各種講義やミュージアム連続講座等に学芸員が出講する。

【令和８年度目標】提供講義 42 コマ

ウ　大阪商工会議所との包括連携協定に基づき、なにわなんでも大阪チャレンジやチェンバーカレンダーの作成等に参画する。

【令和８年度目標】

・なにわなんでも大阪チャレンジ：20 問

・チェンバーカレンダー提供コンテンツ：12 件

(4) 戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信

1) 2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（22）

「大阪博」で得られた知見をもとに、各館のターゲット分析に基づき、各館事業の周知を行う。また、一般向け Web サイト「大阪ミュージアムズ」のリニューアルを行い、広報発信力を高め、国内外からの来館者を獲得する。

2）エビデンスに基づいた戦略的広報の展開（23）

ＷＥＢサイトのアクセス解析データ、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行い戦略的な広報を展開する。

2　幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」

(1) ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備

1）2025 年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）（27）

大阪博で得たＷＥＢ等のプロモーション活動にかかるノウハウを活かし、各館の活動を積極的に周知し来館者の獲得を図る。

2）所蔵するコレクションを積極的に活用した来館者への鑑賞機会の確保（再掲）（28）

ブルームバーグコネクツが提供するアプリ上で所蔵コレクションを紹介し、各館の魅力向上を実現する。

4）来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）（30）

市立美術館及び中之島美術館において、来館者の利便性の向上に資するため開館時間の延長を実施する。

5）多言語表記やＩＣＴの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供（31）

各館の館内案内や展覧会において、自動翻訳サービス等による活用した多言語化やデジタル端末を活用したデジタル化を積極的に進め、来館者に対して快適な鑑賞機会を提供する。

3　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」

(1) こども及び教員等への支援（37）

大阪市教育委員会との連携協定を基に、学校教育にかかる教育ニーズの把握に努める。

(2) 幅広い利用者への支援（38）

ア　キャンパスメンバーズを実施し、大学生や教職員が各博物館を気軽に訪れられるようにし、常設展示・特別展等で行う文化・知識に触れやすくする環境を整え、専門的な知識内容の理解促進を図る。

イ　包括連携協定に基づき、大阪公立大学の博物館講座「資料保存論」「展示論」「博物館経営論」の３講座に対する取りまとめを行い、職員の出講を行う。

【令和８年度目標】提供講義数：計 42 コマ

ウ　市民の学習ニーズに応えるために、出張講座を実施する。

【令和７年度実績】４件

第２　業務運営の改善及び効率化に関する事項

１　自主的かつ自律的な組織運営

(1) 経営と運営の一元化による効果の発揮

1) 全職員に対する博物館機構の経営理念及び活動方針等への理解の促進によるガバナンス強化（42）

理事会及び経営会議の議決事項等を総務課長連絡会・学芸課長連絡会やグループウェアを通じて各館構成員に適宜周知・徹底するとともに、会議終了後速やかに議事録を共有することで、組織全体の意思統一を図る。

2) 中長期的な視点を備えた事業の企画及び実施（43）

ア　経営会議においてこれまでの運営状況にかかる検証を行うとともに、設立 10 年を見据え今後の運営方針を定める。

イ　各館の展覧会の企画・立案について複数年度の計画の情報集約をし、各館事業の連携・調整等を図る。

ウ　５年間の改修計画に基づき、施設整備改修を実施する。

エ　ＰＦＩコンセッション方式により運営する大阪中之島美術館の運営について適宜、検証・改善を行う。

【令和８年度目標】運営協議会：年２回、部会：年 12 回

3) 各館におけるノウハウや事業成果、課題等の博物館機構全体での共有（44）

ア　経営会議、総務課長連絡会・学芸課長連絡会議の場において、事務局及び各館から事業成果や課題を報告し、その成果やノウハウを共有する。また、グループウェアを活用することにより迅速に情報を伝達する。

イ　人流データ分析の情報を広報活動に活かすべく、事務局から各館に展開し情報の共有を図る。

【令和８年度目標】共有回数：月１回

ウ　学芸員による研修報告会を実施することで、各館を横断した知識の向上を図る。

【令和７年度実績】１回

4) エビデンスに基づいた戦略による事業の実施及び評価（45）

ア　事務局においてオープンデータ並びに独自のリサーチに基づくマーケティングデータを駆使しながら広告宣伝・プロモーション戦略を組み立てる。

イ　アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証行い適宜改善を図る。

5) ＰＦＩ事業に係るモニタリングによる大阪中之島美術館の安定的な経営（46）

ア　定期的に運営協議会（２回）や部会（月１回）を開催し、ＰＦＩ事業者との連携を図る等、安定的な運営を行う。

イ　４半期ごとのモニタリングに加えて、適宜来館者数の把握や日々の情報共有による課題抽出を行う。

6) ＩＣＴの積極的活用等による業務の効率化（47）

ア　館蔵品の情報のデータベース化を進め、効率的な検索や管理を行うことにより、学芸分野の業務の効率化を目指す。

イ　積極的なＩＣＴ活用により業務の省力化を進める。

7）より一層のサービス向上実現に向けた民間活力の導入、渉外及び広報機能の強化（48）

ア　アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行う。（再掲）

イ　引き続き、プレスリリース配信サービス（ＰＲ　ＴＩＭＥＳ）を積極的に活用し、機構全体の広報活動の規模拡大と効率向上を図る。

(2) 内部統制の強化

1）内部統制の強化に向けた環境整備（49）

ア　コンプライアンス遵守に関する研修等を実施する。（年間１回）

イ　研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。

ウ　監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを適宜行う。

エ　法令や業務方法書等に基づいた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。

2）事業継続計画（ＢＣＰ）の策定及び継続的改善（50）

緊急事態における事業の継続又は早期復旧を図るため事業継続計画（ＢＣＰ）に沿って訓練等を実施し見直しや改善を行う。

２　職員の育成に向けた取組（51）

ア　全職員を対象とした研修を１回は実施する。

イ　適切な人事交流を行うべく、人事方針を策定する。

ウ　広報やマーケティング・リサーチ等の研修を実施する等、広報・プロモーション等にかかる職員の資質向上を図る。（再掲）

エ　外部の研修等の情報を集約し、各館へ展開することで、職員の能力向上への意識を啓発する。

オ　個人のモチベーション向上に寄与するような組織的なインセンティブが働く仕組みについて検討を行う。

カ　他機関等との人事交流の策定に向け組織内で協議を進める。

キ　職員の多様なキャリア形成に寄与するため、定期的なジョブ・ローテーションを実施する。

ク　学芸員による研究報告会を実施することで各館横断した知識の向上を図る。（再掲）

第３　財務内容の改善に関する事項

１　収入の確保（52）

ア　収入確保に向け、各種の展覧会の広報・プロモーション活動を実施する。

イ　各館において、民間企業と連携した商品開発やデジタルコンテンツの提供等を行う。

ウ　市立美術館、東洋陶磁美術館及び中之島美術館においてユニークベニューを積極的に実施し、収入増加を実現する。

２　外部資金の獲得（53）

ア　外部資金の獲得に向けた戦略を検討するための内部組織の設置に向け、学芸連絡会議等の場で協議を行う。

イ　科学研究費補助金等の採択率の向上に資するべく、学芸連絡会議等の場を活用し成功事例の共有を図る。

ウ　寄附金獲得のための戦略策定に向け内外の関係機関と協議を進める。

３　経費の縮減（54）

ア　事業の効率化はもとより、契約事務審査会等を通じて、適切・効率的な契約手法を検討し、経費節減に繋げる。

イ　ホームページのリニューアルを行い、効果的な情報発信とともに、維持管理のための経費・労力の縮減を図る。

第４　その他業務運営に関する重要事項

１　ＳＤＧｓの理念に基づく取組の推進（55）

ア　被雇用者の多様性に配慮した雇用に努める。

イ　建築物の大規模改修時にて、はじめて訪れる人にも理解できるサインの設置、トップランナー機器等の導入や照明器具のＬＥＤ化、バリアフリートイレの設置など、ＳＤＧｓの理念に基づく取組を推進する。

ウ　こどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、支援メニューの充実に取り組む。

２　来館者等の安全確保（56）

緊急事態における事業の継続又は早期復旧を図るため事業継続計画（ＢＣＰ）に沿って訓練等を実施し見直しや改善を行う。（再掲）

３　情報公開の推進（57）

ア　ホームページ等を積極的に活用し、情報の提供に努めるとともに、情報公開等に対しては速やかに対応する。

イ　ホームページやＳＮＳ等を活用し、法人・各館情報を積極的に発信する。

ウ　大阪博ＬＰと既存のホームページの統合を行い、情報の整理と充実化を図る。

エ　利用者等が理解しやすいホームページの運用を行う。

第 5　予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1　予算（人件費の見積りを含む。）

2026　年度計画

（単位：百万円）

区分	金額
収入	
運営費交付金収入	2,736
施設整備費補助金収入	933
事業等収入	1,025
寄附金等事業収入	64
計	4,758
支出	
業務費	922
一般管理費	1,392
人件費	1,447
施設整備費補助金支出	933
寄附金等事業費支出	64
計	4,758

2　　収支計画

2026　年度計画

（単位：百万円）

区分	金額
費用の部	4,010
経常費用	4,010
業務費	872
一般管理費	1,392
人件費	1,447
施設整備費補助金	50
寄附金等事業費	24
減価償却費	225
収益の部	3,986
経常収益	3,986
運営費交付金収益	2,686
施設整備費補助金収益	50
事業収益	1,005
寄附金等収益	24
資産見返負債戻入	221
純損失	▲ 24
前期繰越金	24
総利益	0

3　資金計画

2026　年度計画

（単位：百万円）

区分	金額
資金支出	6,137
業務活動による支出	3,785
投資活動による支出	973
翌年度への繰越金	1,379
資金収入	6,137
業務活動による収入	3,772
運営費交付金による収入	2,736
事業等による収入	1,026
寄附による収入	10
投資活動による収入	933
施設整備費補助金収入	933
前年度からの繰越金	1,432

第６　短期借入金の限度額

１　限度額

５億円

２　想定される短期借入金の発生事由

運営にかかる一時的な資金不足への対応、運営費交付金の受入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること等が想定される。

第７　出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画

なし

第８　前記の財産以外の重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

第９　剰余金の使途

決算において、剰余金が発生した場合、館蔵品の購入等、展覧事業・調査研究等の充実、施設・設備機器の整備及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。

第10　その他設立団体の規則で定める業務運営並びに財務及び会計に関する事項

１　法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画

前中期目標期間繰越積立金については、館蔵品の購入等、展覧事業・調査研究等の充実、施設・設備機器の整備及び組織運営の改善等、法人の円滑な業務運営に充てる。

２　その他法人の業務運営に関し必要な事項

(1)　人事に関する計画

第１「１（１）ア　専門的人材及び各種活動の充実」に記載のとおり。

第２「２　職員の育成に向けた取組」に記載のとおり。

(2)　施設及び設備に関する計画

長期的な展望に立った計画的な施設設備の整備を行うとともに、施設の老朽化の程度を勘案しつつ、下記のとおりの計画に従った整備を推進する。

施設・設備の内容	予定額（百万円）	財源
・建物改修 ・電気設備更新 ・空調設備改修 ・消防設備更新 ・各所施設整備	933	施設整備費補助金